

天草市持続可能な観光地域づくり アクションプラン（素案）

交流を基調とした選ばれる観光地域づくり

天草市

2026年4月施行

目次

はじめに	2
第1章 持続可能な観光地域づくりアクションプランについて	3
計画の位置づけ	3
第2章 天草市の観光の現状と課題	5
1. 本市の概要	5
2. 国・県の観光の動向	5
3. 本市を取り巻く現況	7
第3章 持続可能な観光地域づくりに向けた施策・アクション体系	22
A. 持続可能なマネジメント	23
B. 社会・経済のサステナビリティ	27
C. 文化的サステナビリティ	32
D. 環境のサステナビリティ	34
第4章 アクションプラン推進体制と財源	37
1. 本市の特徴を生かしたアクションプランの推進体制について	37
2. アクションプランを推進する司令塔組織について（今後の課題）	37
3. アクションプランを推進するための財源について（今後の課題）	38
第5章 目標の設定	40
A. 持続可能なマネジメント	40
B. 社会経済のサステナビリティ	41
C. 文化的サステナビリティ。	42
D_環境のサステナビリティ	43

はじめに

本市は、2市8町からなる県下随一の合併により誕生してから、2026（令和8）年3月に20年を迎えるました。この間、人口減少と少子高齢化が加速度的に進行し、本市の人口は約3割減少しただけでなく、今後はさらに急速に減少していくことが予測されています。人口減少は、労働力不足や経済の縮小、様々な社会インフラや生活サービスの維持の困難化などを引き起こし、そして何よりも、地域の活力の低下を招いています。

このような中で、観光振興による交流人口の拡大は、地域の活力の維持に向けた最重要課題の1つであるといえます。観光客による消費が裾野の広い観光産業において経済波及効果を生むだけでなく、観光客がリピーターや関係人口、ひいては移住者など、地域の活力を支える担い手となることが期待されます。

本市は、「雲仙天草国立公園」にも指定された美しい景観や年間を通じて野生のイルカが生息する貴重な自然環境、豊富で特色ある農林水産物を活かした食文化、世界文化遺産に登録された「天草の崎津集落」に代表されるキリシタンの歴史や南蛮文化など、魅力ある多種多様な地域資源に恵まれています。このため、これらの地域資源を活かした観光振興を展開してきましたが、近年は、単に地域資源を活用するというだけでなく、野生のイルカが生息する美しい海を守る活動や、世界文化遺産の保存・継承等にも取り組んできたほか、2025（令和7）年度には、これらの魅力や価値を、その背景にあるストーリーとともにわかりやすく伝え、市民と観光客とともに、美しく豊かな天草を正しく楽しみ、守り、次の世代に残していくために「インターパリテーションガイドブック」を作成しました。

これらはまさに、国際的な潮流となっている「持続可能な観光」※（サステナブル・ツーリズム）の推進を通じた「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりであるといえます。このような観光地域づくりこそが、本市が国内外から選ばれる観光地となり、観光によって稼いでいくために、他に類を見ない貴重な地域資源を有する本市が目指すべき方向性であり、その実現に向けて地域一丸となって計画的に取り組んでいくことが重要です。

本アクションプランの初年度は、天草地域が雲仙天草国立公園に指定されてから70周年を迎える年に当たります。本アクションプランは、このことを契機として、改めて、美しく豊かな天草を次の世代に残していくために何をすべきか、市民と行政が共通認識を持って、それぞれに期待される役割を果たし、世界に誇れるサステナブルな観光地「AMAKUSA」を実現していくために策定するものです。

※持続可能な観光：「訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び将来の経済・社会・環境への影響を十分に考慮する観光」（国連世界観光機関）

第1章 持続可能な観光地域づくりアクションプランについて

計画の位置づけ

本市では、2023（令和5）年3月に策定した第3次天草市総合計画において、目指すべきまちづくりの将来像を「ともにつながり 幸せ実感 宝の島“天草”」と定め、その実現に向けて市民と行政が共有する理念のうちの1つを「つながり稼げるまち」と定めています。また、この理念に基づく観光分野のありたい姿を「多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられている」と定めています。

その上で、後期基本計画（計画期間：2026（令和8）年度から2029（令和11）年度まで）においては、将来像を実現するための観光分野の政策方針として「交流を基調とした選ばれる観光地域づくり」を掲げ、政策の実効性を高めるため、「日本版持続可能な観光ガイドライン（Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations : JSTS-D）」※に沿った施策体系を採用する観光政策に関する分野別計画として、「天草市持続可能な観光地域づくりアクションプラン」を策定しました。計画期間は、後期基本計画と同様、2026年度から2029年度までの4カ年とします。定期的にモニタリング・評価を行うとともに、必要に応じてアクションの見直しを行います。

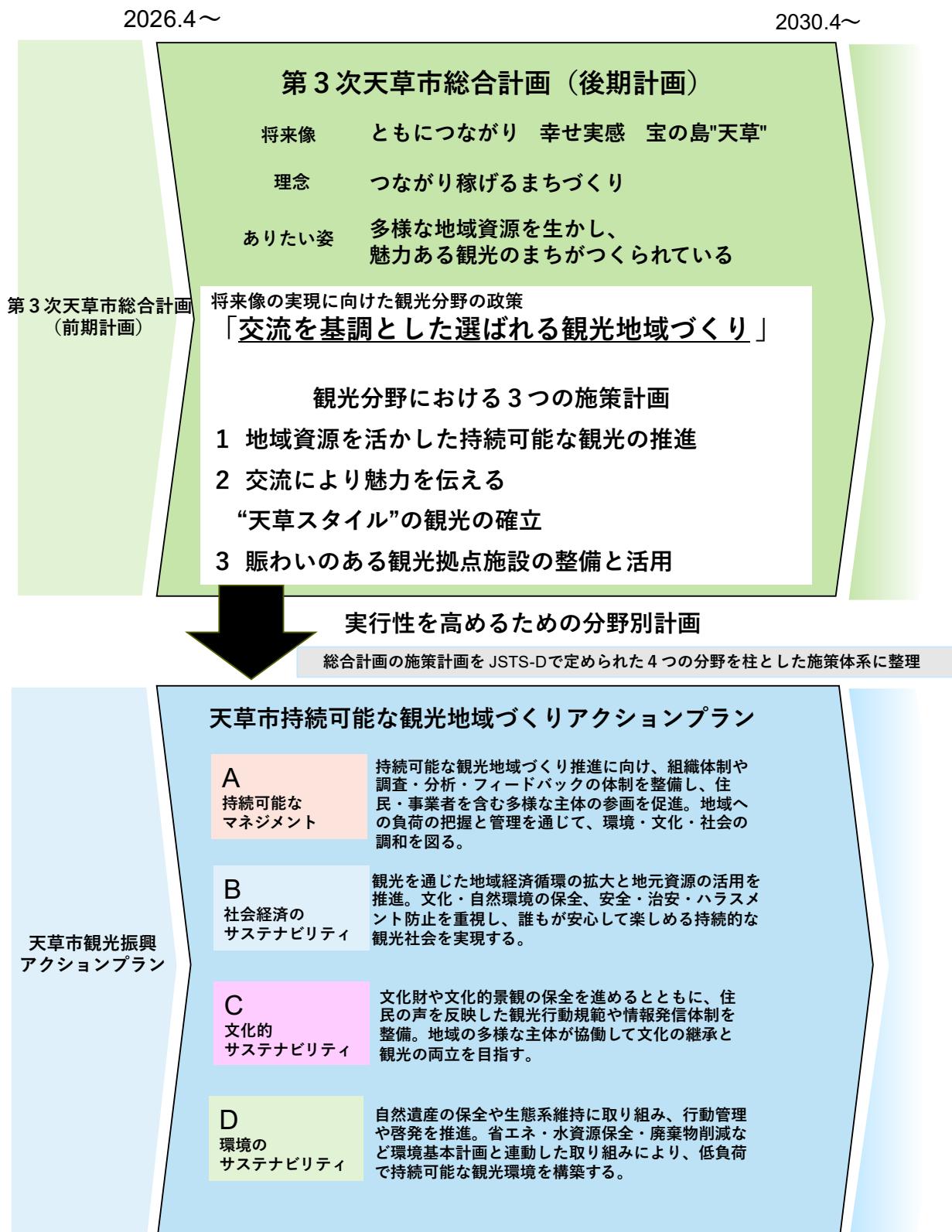
本アクションプランは、前述のとおり、「日本版持続可能な観光ガイドライン」に沿った施策体系を採用しますが、これは主には、第3次天草市総合計画後期基本計画に掲げられた観光政策分野における施策計画のうち「施策計画1 地域資源を活かした持続可能な観光の推進」に関連するものです。本市では、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりに向けて地域一丸となって計画的に取り組んでいくために、この点に重点化して観光政策に関する分野別計画を策定することとしました。

その上で、このような観光地域づくりにおいて、広大な市域に魅力ある多種多様な観光コンテンツが点在する本市の特色を活かすため、「施策計画2 交流により魅力を伝える『天草スタイル』の観光の確立」に掲げる地域住民と来訪者の交流を基調とした観光を推進するための地域資源の再発見・価値づけやその保全、「施策計画3 賑わいのある観光拠点施設の整備と活用」に掲げるサイクルツーリズムやキャンピングカーで楽しむ観光などの移動体験を楽しむ観光需要を取り込む事業等の展開を図ります。

※日本版持続可能な観光ガイドライン：「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりを実現するため、国際基準に準拠しつつ、日本の特性に合わせる形で観光庁により開発された観光指標です。具体的には、Aマネジメント、B社会経済、C文化、D環境の4分野から構成され、47の大項目・113の小項目が設定されています。各地方自治体等は、これらの指標に基づいた取組みを進めることにより、効果的で持続可能な観光地マネジメントを行うことが可能となるとされています。

第1章 持続可能な観光地域づくりアクションプランについて

【図1-1】 本アクションプランの位置づけ



第2章 天草市の観光の現状と課題

1. 本市の概要

本市は、熊本県の南西部に位置し、東シナ海・有明海・八代海（不知火海）の3つの海に囲まれた天草諸島内にある、天草上島・下島、御所浦島などで構成されています。暖流の影響で、海岸部の一部に無霜地帯があるなど、冬は暖かく、夏は比較的涼しい地域です。人口は70,511人（2025年（令和7年）10月、天草市「ひとのうごき」）、総面積は683.82km²（2022年（令和4年）4月時点、国土地理院）で県下最大となっています。産業は、温暖な気候を活かした農業や、豊かな水産資源を活かした漁業を主として発展してきました。

【図2-1】天草市の概要図



2018年（平成30年）7月、「天草の崎津集落」が長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の構成遺産の一つとして世界文化遺産に登録されました。この天草の崎津集落に代表されるキリシタンの歴史や南蛮文化をはじめ、年間を通じて野生のミナミバンドウイルカが棲息する自然環境、雲仙天草国立公園にも指定されている美しい景観、国内で最大級の肉食恐竜の化石が発見された恐竜の島、特色ある農林水産資源を活かした食文化、牛深ハイヤをはじめとする伝統芸能、国内の陶石生産の約8割を占める天草陶石を使ってつくられる天草陶磁器など、魅力ある多種多様な地域資源に恵まれています。これらは他の地域にはない特筆すべき観光資源です。

県庁所在地の熊本市から、天草市役所本庁舎のある本渡まで自動車で2時間ほど、最南端の牛深まではさらに1時間ほどを要します。市内には5つの道の駅をはじめ、キリシタン文化関連の資料館、御所浦恐竜の島博物館などの観光拠点施設があり、旅行者の誘客、情報発信を行っています。また、公共交通の機能面では、熊本市と本渡を結ぶバス「あまくさ号」が運行するほか、福岡空港や熊本空港等とつながる天草空港や、海の玄関口として長崎県とを結ぶ鬼池港、鹿児島県とを結ぶ牛深港・中田港などが整備されており、交通の拠点となっています。

2. 国・県の観光の動向

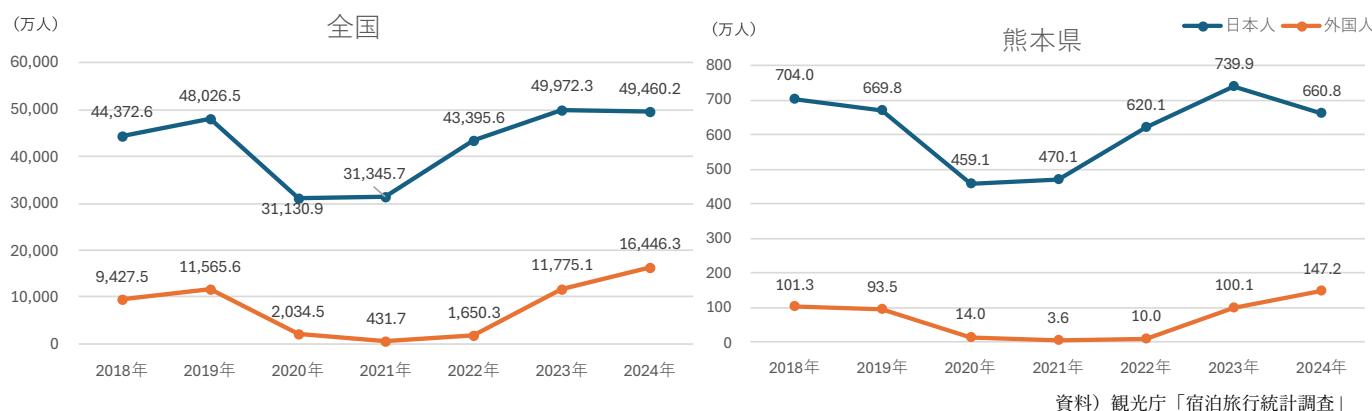
我が国の観光を取り巻く環境は、近年、インバウンド客の増加を背景に大きく変化しています。観光庁によると、2024年の日本人延べ宿泊者数は約4億9,460万人と、コロナ前の2019年（約4億8,027万人）と比べてやや増加にとどまっている一方、外国人延べ宿泊者数は約1億6,446万人となり、コロナ前の2019年（約1億1,566万人）を大きく上回っています【図2-2】。このことから、インバウンド市場は数量的な回復にとどまらず、

新たな成長局面に入ったといえます。

熊本県においても、2024年の日本人延べ宿泊者数は約660万人とコロナ前並みに回復する一方、外国人延べ宿泊者数は約147万人と過去最高水準の大幅な増加となっています【図2-3】。全国的な訪日客増加の流れが、地方部にも波及しつつある状況がうかがえます。

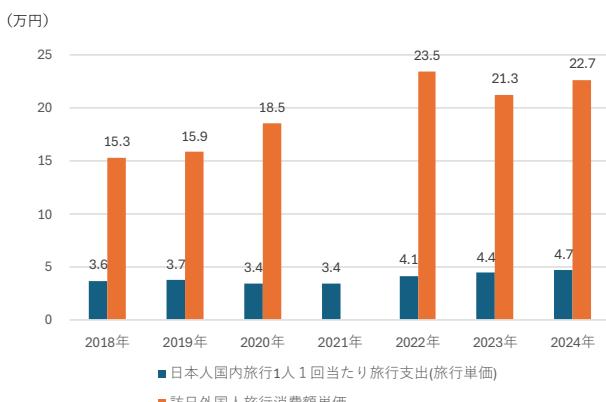
観光消費に着目すると、日本人旅行者の1回あたりの旅行支出額が約4.7万円であるのに対し、訪日外国人の消費単価は約22.7万円と、5倍近くの差があります【図2-3】。熊本県においても、日本人宿泊者の観光消費額単価が約3.1万円であるのに対し、外国人宿泊者は約8.6万円と2倍以上の差があります【図2-4】。訪日外国人の誘客は、外貨獲得を通じて地域経済の成長に寄与する可能性がある取組として多くの地域で注目されています。

【図2-2】 日本人・外国人別延べ宿泊者数推移



資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

【図2-3】 全国の日本人・外国人別観光消費額単価



資料) 観光庁「旅行・観光消費動向調査 2024年 年間値(確報)」、
「訪日外国人の消費動向」

一方、こうしたインバウンド市場の成長は、特定の地域や時間帯に観光客が集中することで、混雑やマナーの問題、住民の生活へ影響を及ぼす「オーバーツーリズム」を引き起こす要因として問題視されています。この状況を受け、観光庁では、観光客の分散化や受入環境の整備、旅行前からの情報発信による意識啓発、地域住民を含めた話し合いの場づくりなどを通じて、オーバーツーリズムの未然防止・抑制に取り組んでいます。また、国は、地域が主体となって観光をマネジメントしていくことを重視し、DMOを中心とした人材育成や組織体制の強化、データを活用した観光地経営などを支援しています。観光を単なる集客施策として捉えるのではなく、地域の暮らしや環境、文化と調和させながら持続的に発展させていく考え方が重視されています。

熊本県においても、混雑緩和やDX化など受入環境の整備に関する取組への補助事業や、DMCなどと連携した観光人材の育成が重要な取組として位置付けられています。

こうした国や県の動向を踏まえ、天草市においても、観光による効果を地域全体で享受しながら、住民の暮らしや自然・文化を守る視点を持ち、地域の人や組織が主体となって観光地域づくりを支える体制の構築を進めていくことが求められます。

オーバーツーリズム対策の先進事例

ルールとガイドによる受入管理の取組 (山梨県 富士吉田市)

富士山周辺では、登山者の集中による混雑や安全面、マナーの問題が課題となっていました。こうした状況を受け、吉田ルートでは通行時間帯の調整や事前予約制の導入などにより、来訪者数や行動を適切に管理する取組が進められています。あわせて、ガイドや関係者による巡視や注意喚起を行い、登山者に対して安全確保や環境保全への理解を促しています。ルールの明確化と現地での丁寧な案内を組み合わせることで、自然環境と利用者双方の安全・満足度を高める取組として評価されています。

住民の声を起点とした課題解決の取組 (沖縄県 恩納村)

観光客の増加により、ビーチ周辺での違法駐車やマナーの問題など、住民生活への影響が課題となっていた恩納村では、住民の声を聞き取ることから対策を検討しました。地域住民や関係事業者と意見交換を重ね、課題を整理したうえで、駐車対策やルール・マナーの周知など、実情に即した取組を段階的に実施しています。観光の価値を守りながら、住民の暮らしとの調和を図る姿勢が重視されており、地域合意を基盤とした持続可能な観光対応の事例といえます。

3. 本市を取り巻く現況

持続可能な観光への取組みが求められる背景

人口減少・高齢化の進行

2000年（平成12年）時点において、10万人以上あった本市の人口は年々減少し、2025年（令和7年）時点においては、約7万人まで減少しています。また、高齢化も急速に進展しており、2040年（令和22年）には、本市の人口の半数以上が、65歳以上の高齢者となることが予測されています【図2-5】。

少子化や高齢化による生産年齢人口（国内の生産活動を支える中核となる15歳以上65歳未満の人口）の減少に伴い、宿泊・飲食・娯楽業など地域における観光の担い手も大幅な減少傾向にあります。観光関連産業においては、2016年（平成28年）から2021年（令和3年）までの5年間で就業者数は20%以上減少しており、全産業の中でも特に減少率が高くなっています【図2-6】。また、市内事業者向けアンケート調査においても、経営上の主な課題として、「人手不足」が47.2%と最も多く挙げられました【図2-7】。

第2章 天草市の観光の現状と課題

【図2-5】 天草市の将来推計人口推移



資料) 総務省「国勢調査」(2000~2020年)

天草市「ひとのうごき8月」(2025年)

国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」

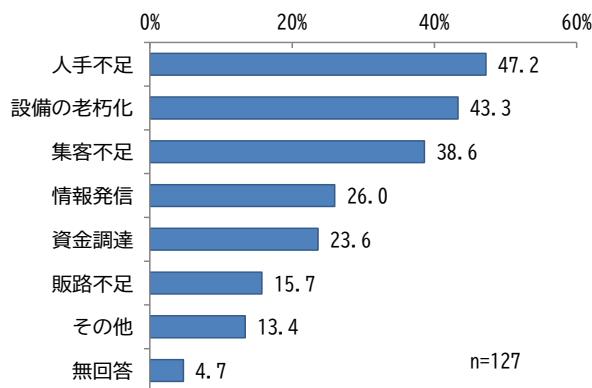
(2030~2050年)

【図2-6】 天草市の産業別就業者数推移



資料) 総務省統計局「経済センサス」

【図2-7】 市内事業者の経営上の主な課題



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

JSTS-Dに基づく分類別の現状と課題

本市の総合計画に掲げる「交流を基調とした選ばれる観光地域づくり」は、来訪者との交流を重ねながら、旅行形態や価値観の変容に応じて価値を磨き続け、地域が選ばれ続けることで持続可能性を確保していく姿の実現を目指しています。

本アクションプランでは、社会経済・文化・環境の3つの側面に加え、観光地マネジメントを踏まえたJSTS-Dの4つの分類に基づき、本市の観光を取り巻く現状や課題を整理しました。

A. 持続可能なマネジメントにおける現状と課題

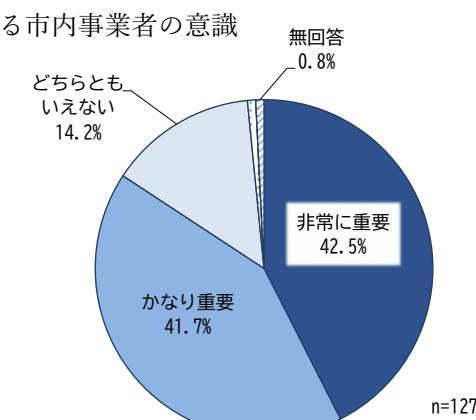
I. マネジメントの組織と枠組み

現 状

人口減少や高齢化などの経済規模を縮小させる要因が多くある中で、経済規模を維持するためには、地域内の経済循環を高めていく必要があります。そのために地域の多様な関係者の協働が求められるとともに、観光地として、地域が一体的に経営マネジメントできる組織や団体の必要性が高まっています。

事業者アンケートでは、「持続可能な観光」の取組みについて、8割を超える市内の事業者が、「非常に重要」「かなり重要」と回答しており、その取組みの重要性は高く認識されていますが【図2-8】、地域全体としては取組みを進めていくための組織や体制は十分には整っていません。

【図2-8】 「持続可能な観光」の重要性に対する市内事業者の意識



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

課題

観光に起因する地域課題を把握・分析しフィードバックする仕組みづくりなど、持続可能な観光を推進するためのマネジメント体制の整備が必要となります。

II. ステークホルダーの参画

現状

旅行形態や価値観の変容による観光ニーズの多様化によって、地域内での企業活動のみならず、地域生活にもたらす影響も多岐にわたり、利害関係者（ステークホルダー）は、旅行会社や宿泊事業者にとどまらず、ガイド

第2章 天草市の観光の現状と課題

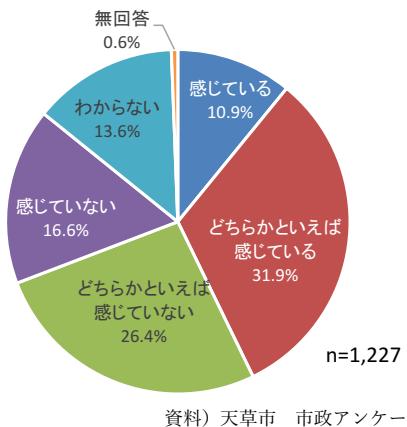
やアクティビティ事業者などの観光関係事業者とともに地域住民にも拡大しています。そのため、観光の価値や役割、負荷が利害関係者の間で広く理解される機会の創出に加えて、地域資源に係るガイドラインなどに基づく観光教育の充実が求められています。

市政アンケートでは、「観光振興が地域経済の活性化や市民生活の向上に役立っていると感じていますか。」に、「感じている」「どちらかというと感じている」とした割合が半数を下回っています【図2-9】。

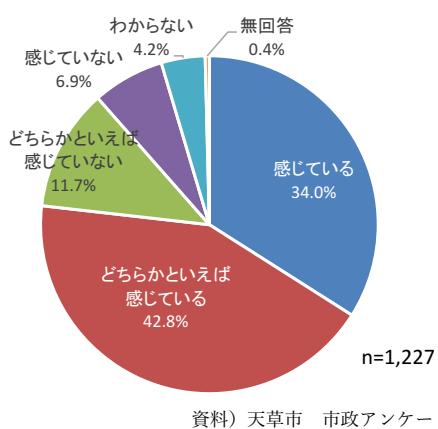
また、事業者アンケートでは、「持続可能な観光」の認知度は8割を超える一方で、「内容までよく理解している」との回答は3割弱にとどまっています【図2-10】。加えて、第一次産業の関係者からは、観光分野との結びつきを感じにくいとの声も聞かれ、分野を越えた連携や理解が十分に進んでいない状況がうかがえます。

なお、市政アンケートでは、「美しい自然や歴史・文化、美味しい食など、魅力あるまちであると感じていますか。」に、「感じている」「どちらかというと感じている」とした割合が7割を超え【図2-11】、本市の魅力は市民に一定程度認識されています。

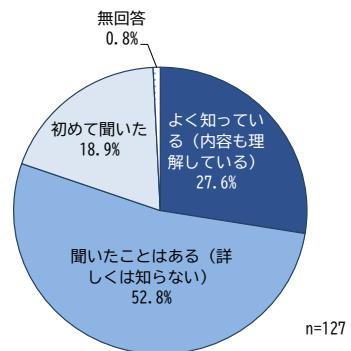
【図 2-9】 観光振興の効果に対する市民意識



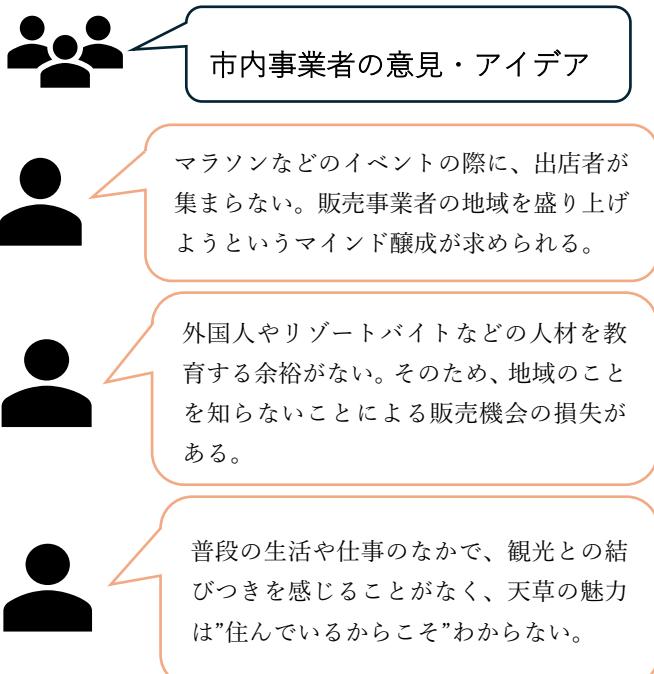
【図 2-11】 天草市の魅力に関する市民意識



【図 2-10】 市内事業者の「持続可能な観光」の認知状況



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート



課題

セミナーや研修会といった観光教育や、市民向けのプロモーションを通じ、持続可能な観光地域づくりが地域の社会や経済を活性化させ、さらには住民の暮らしを守ることにつながるという観光の価値や役割を、広く伝えていく必要があります。

III.負荷の変化と管理

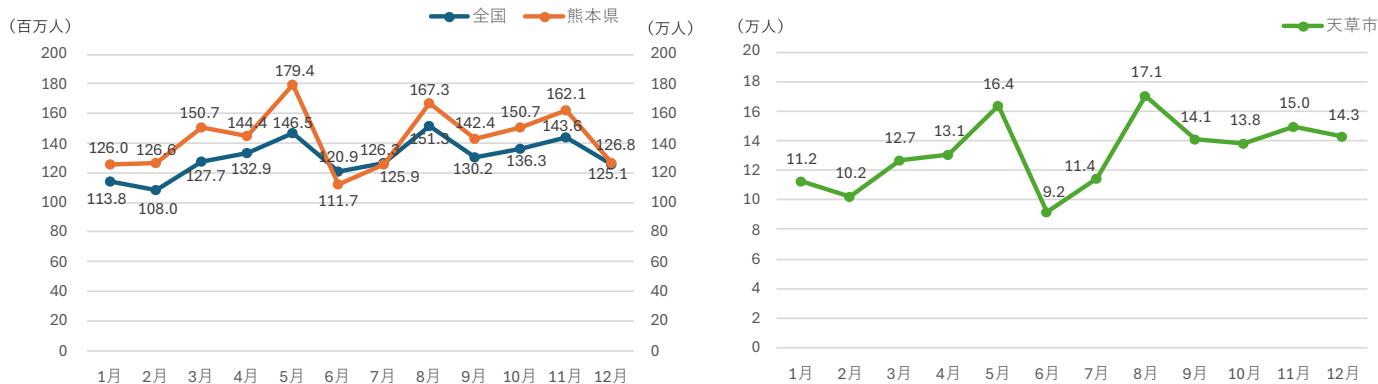
現状

本市への来訪者数は、全国や県の動向と同様に季節や時期による変動が大きい傾向にあります。大型連休のある5月や夏休みのある8月に来訪者が集中する一方、梅雨時期の6月や12月からの冬季は、大きく減少する傾向が見られます。【図2-12】。

市内事業者アンケートでは、「観光客の季節・平日休日の変動に関して課題を感じていますか。」に、6割を超える事業者が課題であるとしています【図2-13】。また、「観光客の季節・平日休日の変動に関する課題について該当するものをお選びください。(複数回答)」に、8割以上が閑散期における売り上げの不安定化、5割以上が繁忙期における人手不足をあげています【図2-14】。

近年、気候変動の影響により、豪雨などの自然災害が全国的に多く発生しています。2025（令和7）年8月には、本市において建物や道路の浸水等を伴う被害が発生しました。今後、気候変動や自然災害によって、これまで見ることができた自然景観や収穫等できた農林水産物などの地域資源や、季節のサイクルの維持ができなくなる懸念があります。

【図2-12】 全国、熊本県、天草市の来訪者数推移（月別）



注) データは2024年1月～12月

資料) (公財)九州経済調査協会「おでかけウォッチャー、

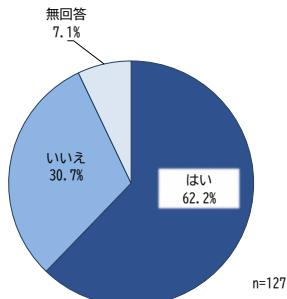
(株) ブログウォッチャー『デジタル観光統計(国内版)』」

注) データは2024年1月～12月

資料) (公財)九州経済調査協会・(株) ブログウォッチャー

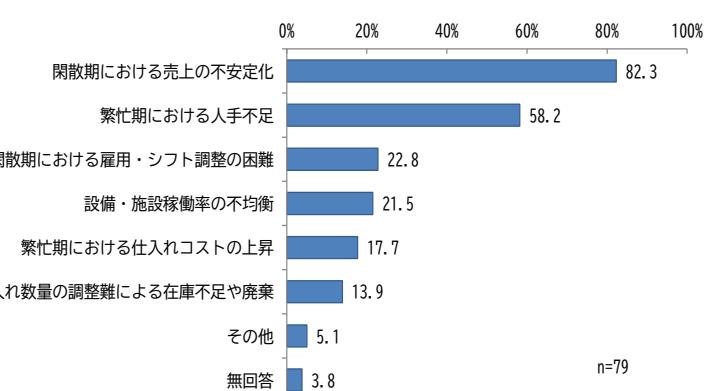
「おでかけウォッチャー」

【図2-13】 市内事業者の観光客数の季節・曜日差に関する課題意識



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

【図2-14】 観光客の変動に関する課題



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

課題

年間を通して訪れる来訪者の平準化、自然及び文化的資源の保護、行動規制及び保全事業、関連計画に沿った取組みを検討するため、まずは地域への負荷をモニタリングで把握する必要があります。

防災については、住民、観光客を含む人命、文化財への被害が最小限となるよう、平時からの対策が重要になります。

B. 社会経済のサステナビリティにおける現状と課題

I. 地域経済への貢献

現状

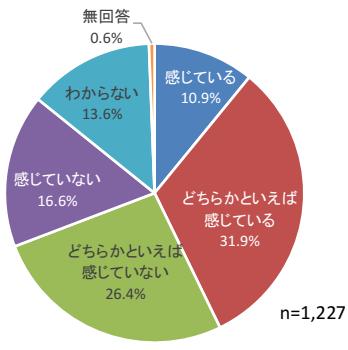
観光による経済効果が地域内の雇用につながり、地産地消となっているのかについて、住民に貢献への実感が乏しい状況にあります。市政アンケートでは、「観光振興が地域経済の活性化や市民生活の向上に役立っていると感じていますか。」に、「感じている」「どちらかというと感じている」とした割合が半数を下回っています【図2-15】。

また、事業者アンケートでは、約半数の事業者が「自社の事業において、市内でつくられた原材料や市内の事業者が提供する商品・サービスを活用している」とし、一定程度、事業者において域内調達を意識した取組みを行っている一方で【図2-16】、さらなる広がりの余地も残されています。

ただ、域内調達を進めるにあたって、供給量の安定性や価格面に課題を感じている事業者も多く、個々の努力だけでは対応が難しい側面も見られます【図2-17】。

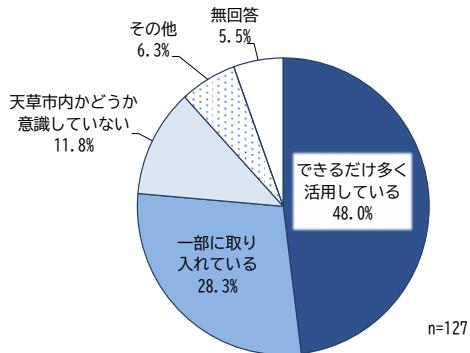
第2章 天草市の観光の現状と課題

【図2-15】(再掲) 観光振興の効果に対する市民意識



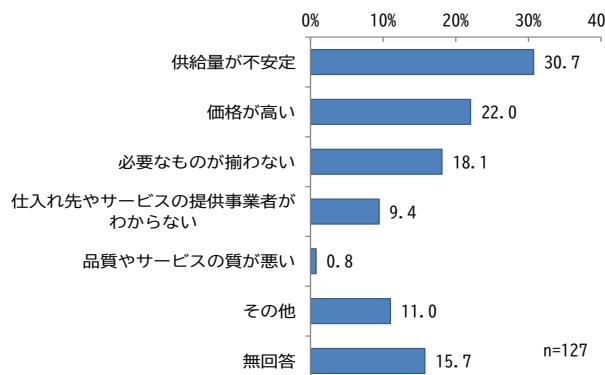
資料) 天草市 市政アンケート

【図2-16】 市内事業者の天草産原材料・市内サービスの活用状況



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

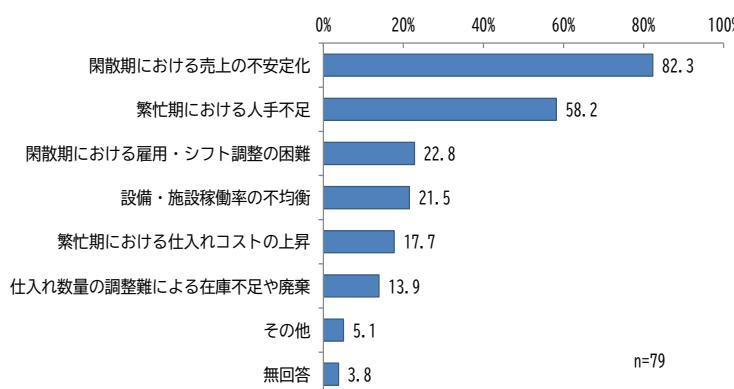
【図2-17】 市内事業者の天草産原材料・市内サービス活用の課題



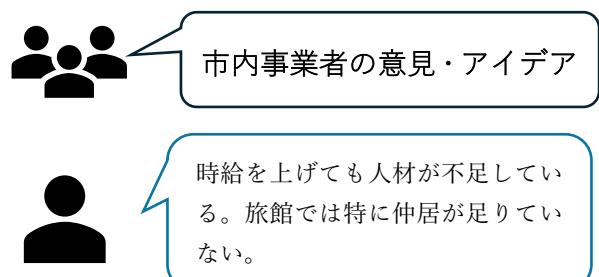
資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

観光を地域経済の活性化につなげるためには、安定した雇用環境も重要になります。ただし、飲食業や宿泊業などの観光の担い手は減少し、市内事業者アンケートでは、5割以上が「繁忙期における人手不足(複数回答)」に課題を感じているとしています【図2-18】。併せて、市内事業者へのヒアリングでは、「時給を上げても人材が不足している」「旅館では特に仲居が足りていない」との具体的な意見もありました。

【図2-18】(再掲) 観光客の変動に関する課題



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート



第2章 天草市の観光の現状と課題

地域内での経済循環を高め、安定した雇用を確保する必要がある一方、人口減少や高齢化は進展していくため、今後、少ない人員や時間を効率的に使い、商品・サービスの高付加価値化などにより、適正な収益を確保すること、さらには観光客をただ増やすのではなく、観光消費額をいかに高めるのかが重要になります。

本市の観光客は、コロナ禍以降全体として回復傾向にあります。県外からの宿泊者数は、コロナ禍に大きく落ち込んだ後に、大幅に回復しています。外国人宿泊者数も、2024年（令和6年）に約3,600人となり、コロナ禍前の水準を上回りましたが【図2-18】、全国や県と比較すると、外国人観光客の割合は依然として低い水準にとどまっています【図2-19】。また、市内観光事業者へのヒアリングでも、外国人観光客の増加を十分に実感できていないという意見が多く聞かれました。

本市への来訪者の発地では、九州内からが大半を占めており、天草空港からの航空路がある大阪府では2.5%、東京都では2.4%にとどまっています。遠方からの来訪は宿泊を伴うことが多く、滞在時間の最大化に期待できるため、空港がある本市の強みを、遠方からの誘客にさらに活かしていく必要があります【図2-20】。

加えて、来訪者の年齢・性別構成では、相対的に40代以上の男性が多く、若年層や女性の割合が低い傾向にあります【図2-21】。また、観光消費額単価では、60代以上で高い水準を示し、20~30代は比較的低い傾向にあり、いずれにおいても消費を拡大できる余地は残されています【図2-22】。

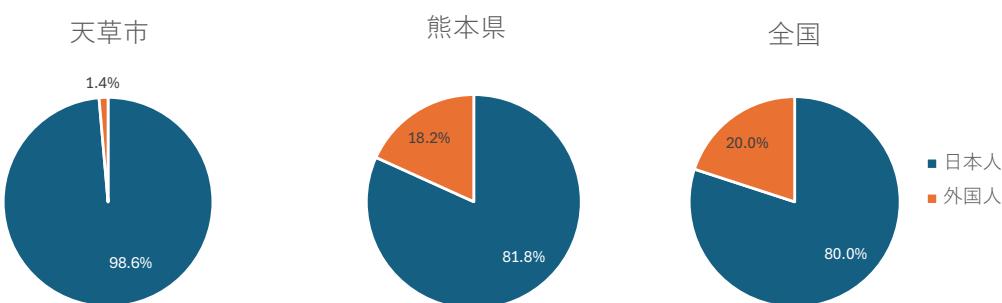
来訪者の市内における周遊行動では、崎津集落を中心とした周遊が多く、市内の各道の駅と組み合わせた移動が多くあります。複数の道の駅を巡る行動もあり、自家用車やレンタカーによる来訪が主流であることが、推察されます【図2-23】。また、市内事業者アンケートでは、「天草市の観光振興において、現在課題であると感じる点は何ですか。」に、8割以上が「交通アクセスの不便さ」をあげています【図2-24】。

観光消費額を拡大するためには、周遊や宿泊により滞在時間を最大化する必要があります。移動に時間を使うことは、目的地に選択されない要因となる反面、観光スポットを巡る周遊や移動体験そのものを利用とした需要を獲得しやすい強みにもなると考えられます。

【図2-18】 天草市宿泊者数推計

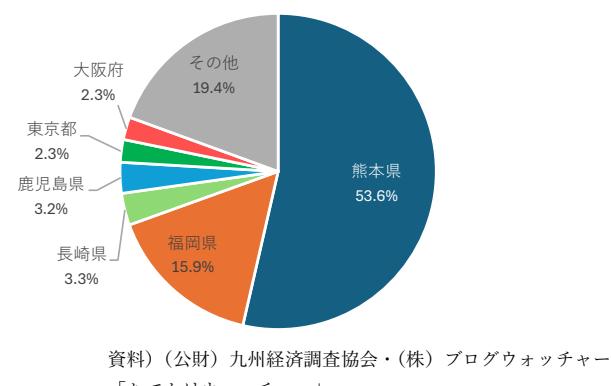


【図2-19】 天草市、熊本県、全国の宿泊者の日本人・外国人比率（2024年）

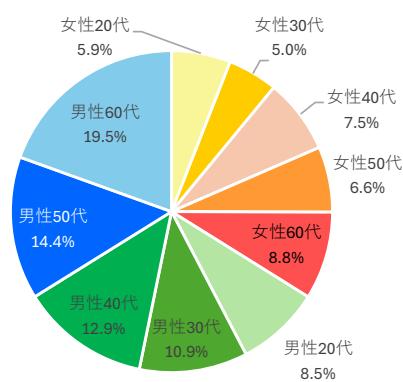


資料) 天草市「天草市宿泊客数推計」、熊本県「熊本県観光統計表」
観光庁「宿泊旅行統計調査」

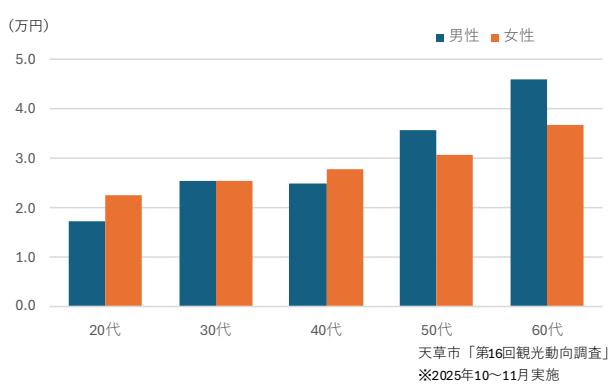
【図2-20】 天草市来訪者の発地都道府県内訳(2025年)



【図2-21】 天草市の属性別来訪者数(2025年)



【図2-22】 天草市一人当たりの観光消費額

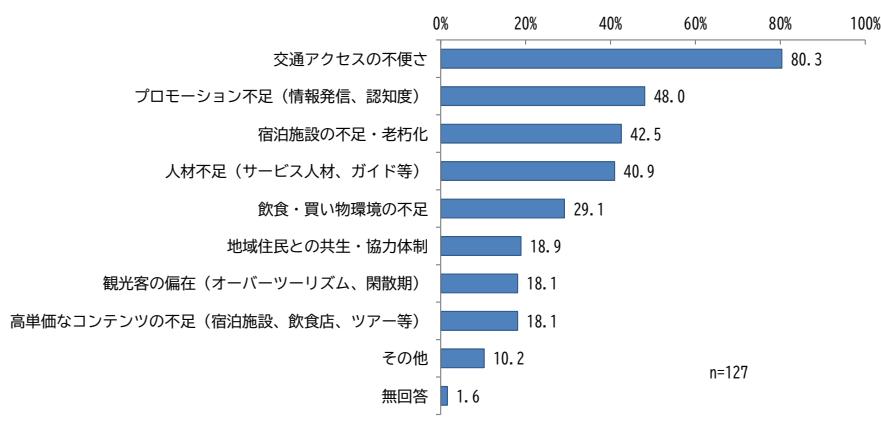


【図2-23】 天草市来訪者の主要な周遊パターン(2025年)

周遊パターン	周遊者数	シェア
崎津集落 ⇄ 道の駅 うしづか海彩館	1861	5.7%
道の駅 有明リップルランド ⇄ 道の駅天草市イルカセンター	1702	5.2%
道の駅 うしづか海彩館 ⇄ 道の駅 宮地岳かかしの里	1443	4.4%
崎津集落 ⇄ 道の駅 宮地岳かかしの里	1392	4.2%
うしづか公園 ⇄ 道の駅 うしづか海彩館	1091	3.3%
牛深港 ⇄ 道の駅 うしづか海彩館	715	2.2%
崎津集落 ⇄ 道の駅天草市イルカセンター	689	2.1%
道の駅天草市イルカセンター ⇄ 鬼池港	682	2.1%
道の駅 うしづか海彩館 ⇄ 道の駅天草市イルカセンター	581	1.8%
崎津集落 ⇄ 大江教会	550	1.7%

資料) (公財)九州経済調査協会・(株)プログウォッチャー
「おでかけウォッチャー」

【図2-24】 市内事業者の観光振興における主な課題





市内事業者の意見・アイデア



イルカが魚を食べるなど、イルカウォッチング事業者と漁業者の利益が相反する点がある。双方の利益を守るために観光の文脈でできることとして、観光客がイルカウォッチングと一緒に地元の魚を食べるような仕組みづくりが必要。



他都市からのアクセスに時間がかかるため、天草市に訪問する目的となるような目玉を作つてはどうか。

課題

観光による効果を最大化するためには、地域内の経済循環を高めることが重要になります。その第一歩として、まずは観光による経済波及効果の算出、地域内調達率を把握すること。また、定量的な根拠に基づく目標設定を行なうことが必要になります。

また、本市の観光関連産業では人手不足が特に顕著となっています。安定した事業継続のためには、雇用機会の創出や離職防止に取り組む必要があります。データを活用した観光客数の平準化を図り、生産性向上や人材育成を通して、観光関連事業者が無理なく働きがいを持って就労を続けられる仕組みづくりが求められます。

観光客のさらなる誘客に関しては、既存の観光客層を維持しつつ、訪日外国人や大都市圏の若年層や女性など、新たな客層の獲得と消費喚起が必要になります。併せて、新たな観光コンテンツの造成、高付加価値な体験の提供などを通じて、観光消費額の拡大へと結び付けていくことが重要になります。

高速交通体系が未整備な本市においては、多くの来訪者が快適に周遊できるように、公共交通を含めた移動手段の分かりやすさや利便性向上の取組みが必要になるとともに、滞在時間を最大化するうえで、移動時間の長さを逆に利用する発想の必要性、道の駅などの市内各地の観光拠点施設間の周遊促進、サイクルルートやキャンピングカーの受入環境整備や移動体験そのものを楽しむ観光ニーズの取り込みが求められます。

II.社会福祉と負荷

現状

訪日外国人観光客が増加するなかで、多様な価値観や生活習慣を受け入れられる態勢づくりが求められています。また、市内事業者ヒアリングでは、観光客の増加に伴うごみの増加、マナー、安全性への不安も寄せられるなど、観光による負担が生活面で危惧されつつある状況も見られます。今後、持続可能な観光を目指すうえで、観光による貢献と負荷のバランスをとりながら取組みを進めていくことが重要になります。

課題

訪日外国人や高齢者など、多様な観光客が安心して滞在を楽しめるように、ユニバーサルデザインや多言語での案内等のさらなる普及が必要になります。また、観光客の増加による生活への負荷の心配を払拭するため、防犯設備導入の支援など、安全や治安面に配慮した視点での体制づくりが求められます。

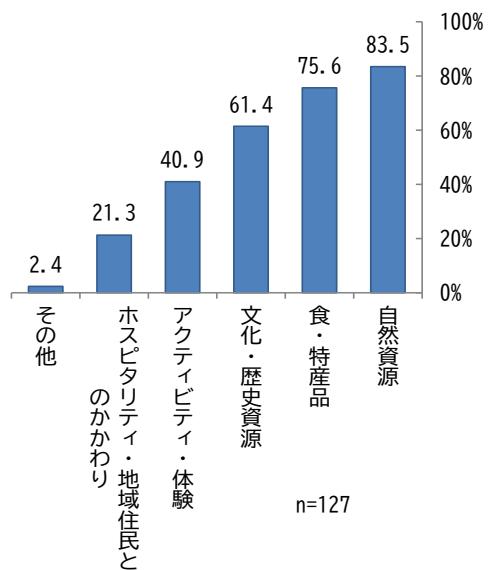
C. 文化的サステナビリティにおける現状と課題

I. 文化財等の保護

現 状

本市には、世界文化遺産「天草の崎津集落」や牛深ハイヤをはじめとする、地域の歴史や文化を象徴する貴重な資源が数多く存在しています。市政アンケートにおいても、「天草市の魅力として重要であると感じる地域資源は何ですか。」という問い合わせに対し、「文化・歴史資源」と回答した割合は6割を超えており【図2-25】、本市の文化・歴史資源は市民から高く評価されています。これらを市民にとっての誇れる地域資源、また来訪者にとっても魅力的な観光資源として、保護（保存・活用）し続けることが重要です。

【図2-25】 市内事業者が魅力と感じる地域資源



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

課 題

本市の文化財が今後も長く、魅力ある地域資源として評価されるよう、「天草市文化振興計画」などの関連計画と連動した文化財の維持・保全、価値の発信に取り組むことが必要です。

II. 文化的場所への訪問

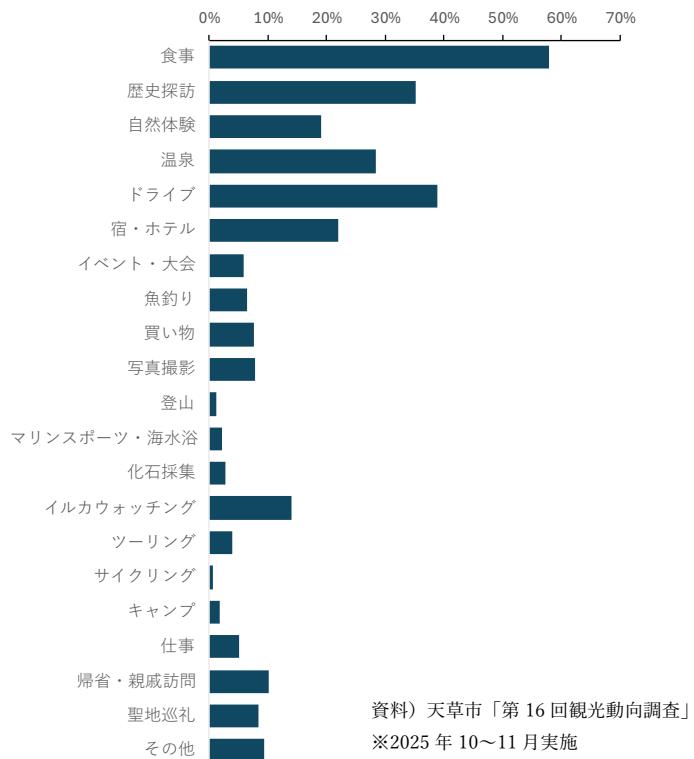
現 状

観光動向調査によると、「天草市に訪れた目的」として「歴史探訪」を挙げた来訪者は約35%にとどまっており【図2-26】、天草市の歴史や文化の魅力を、より多くの来訪者に伝える余地がある状況です。特に、文化的景

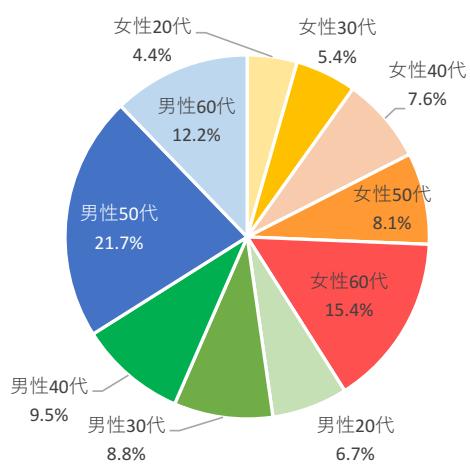
第2章 天草市の観光の現状と課題

観として代表的な崎津集落について、来訪者の年齢・性別構成を見ると、半数以上を50代以上の来訪者が占めており、本市全体の来訪者に比べ若者が少ない傾向にあることがわかります【図2-27】。

【図2-26】 天草市への訪問目的



【図2-27】「崎津集落」の属性別来訪者（2025年）



資料) (公財)九州経済調査協会・(株)プログウォッチャー

「おでかけウォッチャー」

資料) 天草市「第16回観光動向調査」
※2025年10~11月実施



市内事業者の意見・アイデア



崎津集落は一度に大勢の観光客が来るのではなく、コンスタントに少しづつ受け入れるのが理想である。また、住民の生活との調整が必要になるため、行政主導の観光客受け入れガイドラインが必要ではないか。

課題

歴史探訪を目的とした本市への来訪は、他の目的に比べ多いものの、さらなる向上が期待できます。若年層や女性など、これまで誘客力が弱かった層にも魅力を伝えられるよう、情報発信の強化や、文化財の持つ価値や背景を来訪者に分かりやすく伝える仕組みづくりが課題と言えます。また、魅力を伝えるだけでなく、地域住民と来訪者が一体となって文化財の保護に取り組めるよう、ガイドの育成や観光マナーの啓発を進めていく必要があります。

D. 環境のサステナビリティにおける現状と課題

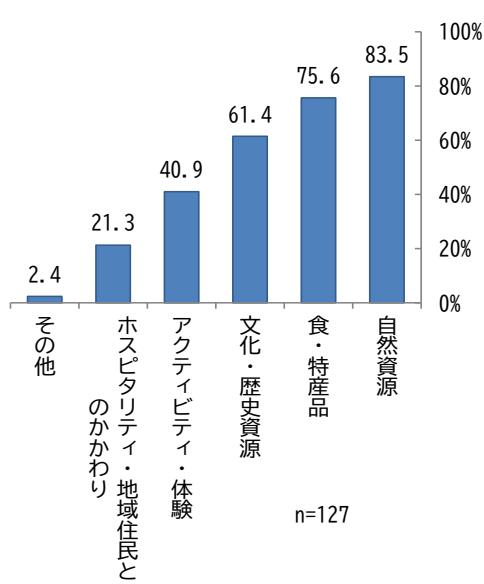
I. 自然遺産（国立公園）の保全

現 状

本市の豊かな自然環境は、市民にとっても来訪者にとっても大きな魅力となっています。市政アンケートでは、「天草市の魅力として重要であると感じる地域資源は何ですか。」という問い合わせに対し、「自然資源」と回答した割合が8割を超えており【図2-28】、観光動向調査でも自然体験を目的とした来訪が19.1%、イルカウォッチングで14.1%、魚釣りが6.4%など、自然資源が存在してこそ楽しめるアクティビティを目的とした来訪が、一定数あることがわかります【図2-29】。

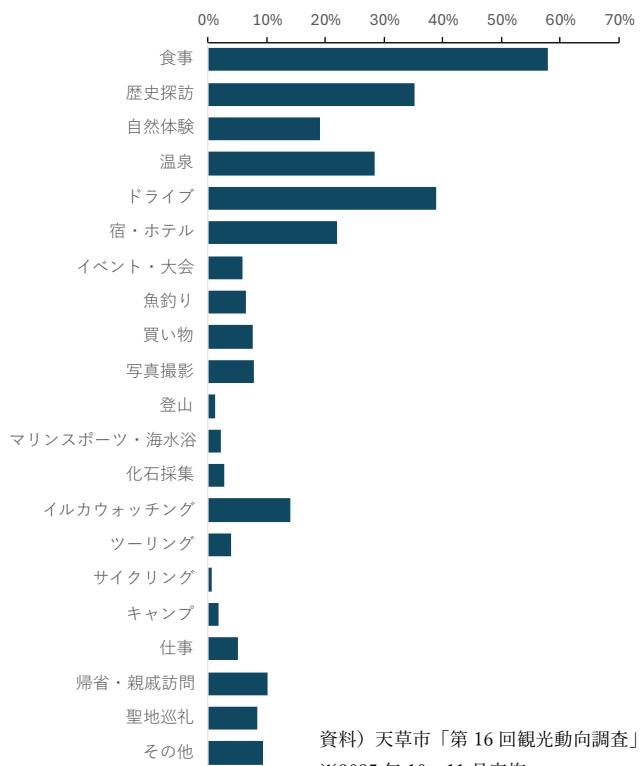
豊富な自然資源が存在することで、良好な景観が形成される一方、観光客が増加することで、景観形成を阻害する恐れがあります。事業者ヒアリングでは、「主に主要な道路沿いで、ゴミが落ちているところがあり、景観を損なっていると感じる」という意見も聞かれました。

【図2-28】(再掲) 市内事業者が魅力と感じる地域資源



資料) 天草市「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

【図2-29】(再掲) 天草市への訪問目的



課 題

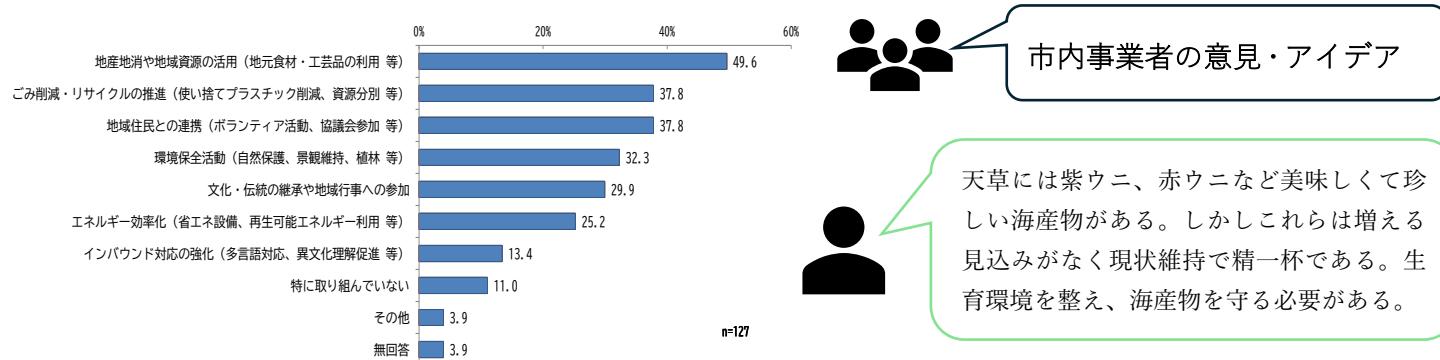
本市の豊かな自然資源や良好な景観は、地域住民、来訪者ともに高く評価されています。一方で、観光客の増加に伴い、ゴミの増加などによる景観の悪化が懸念されます。自然遺産のリストの活用による来訪者の自然保護への関心と理解を深めるとともに、地域住民と来訪者が一体となって自然遺産の保護に取り組めるよう、ガイドの育成や観光マナーの啓発を進めていく必要があります。

II.資源マネジメント

現 状

持続可能な観光地域づくりを進めるうえで、温室効果ガスや水環境の保全など、地球環境に配慮した行動も重要になります。事業者アンケートの「現在、自社として「持続可能な観光」に関連する取組を行っていますか。」という問い合わせに対し、「エネルギー効率化」は25.2%の回答者が取り組んでいると回答しました【図2-30】。一定数の事業者で取組みが進んでいるものの、さらなる実施率の向上が求められます。取組みの実施に至っていない理由に着目すると、「具体的に何をすればよいか分からない」「費用や人手などの余裕がない」というものが多く、環境配慮の重要性は多くの事業者が認識しているものの、取組方法が分からることや、コスト面での負担が障壁となり、十分に実践できていない事業者も一定数いる状況がうかがえます。

【図2-30】 市内事業者の「持続可能な観光」への取組状況



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

課 題

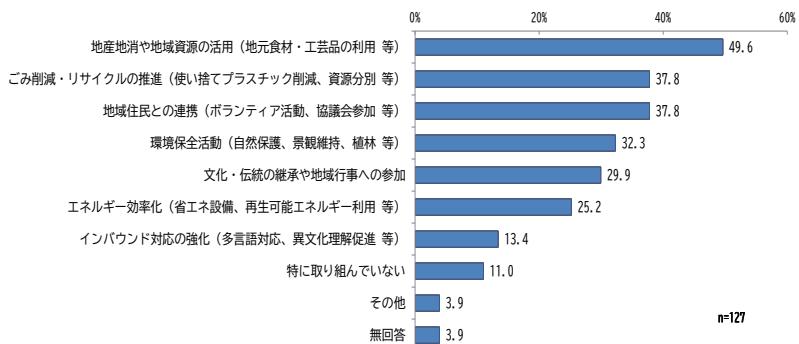
事業者自らが事業活動における省エネルギーに取り組めるように引き続き、啓発する必要があります。また、水質や生態系の調査、清掃活動の支援により水環境を引き続き、保全するとともに、イルカウォッチングやマリンアクティビティなどの活用につなげていく必要があります。

III.廃棄物と排出量の管理

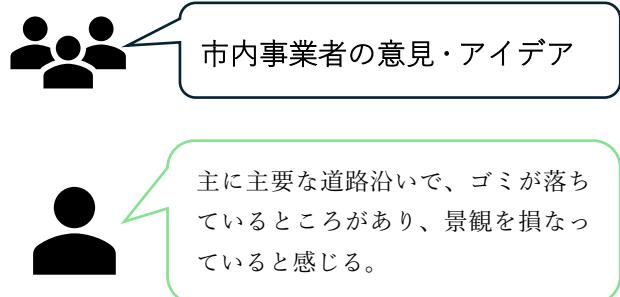
現 状

観光に関連する事業活動や観光客の行動により、ごみや騒音・振動の発生など、周辺環境への影響が及ぶことが想定されます。事業者アンケートの「現在、自社として「持続可能な観光」に関する取組を行っていますか。」という問い合わせに対し、「ごみ削減・リサイクルの推進」と回答した方は37.8%でした【図】。比較的実施率の高い取組みであるものの、さらなる改善が求められます。

【図2-30】 市内事業者の「持続可能な観光」への取組状況



資料)天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート



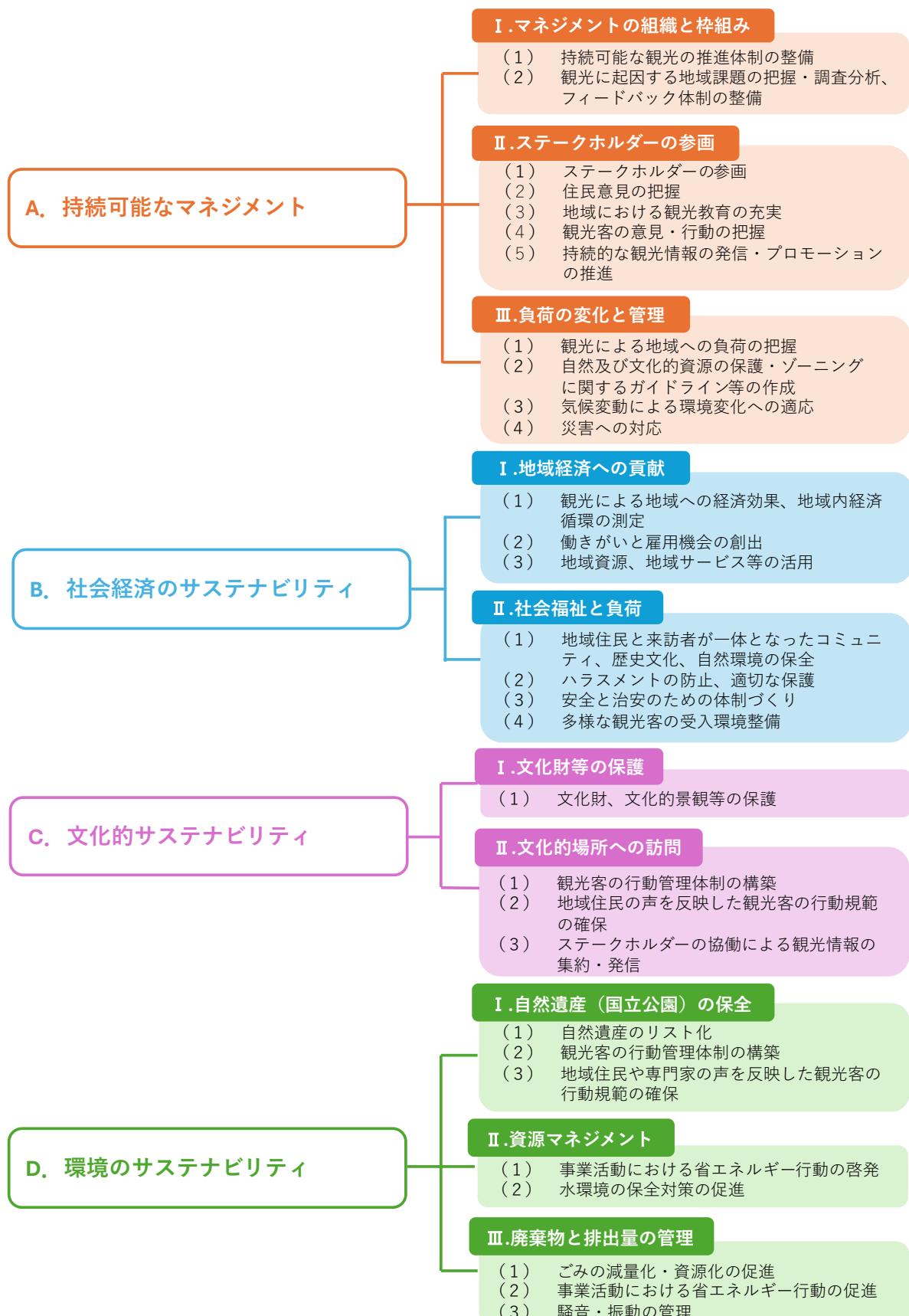
課 題

良好な生活環境を保つため、市内の各事業所が企業活動におけるごみの減量化や資源化、省エネルギー機器の導入など環境に配慮した行動が必要です。また、来訪者にごみの分別、マイボトルやマイバッグの利用を呼び掛けるなど啓発することで観光施設におけるごみの減量化や資源化を推進する必要があります。

第3章 持続可能な観光地域づくりに向けた施策・アクション体系

【JSTS-Dに基づく4つの柱】

【基本施策】



A. 持続可能なマネジメント

持続可能な観光地域づくり推進に向け、組織体制や調査・分析・フィードバックの体制を整備し、住民・事業者を含む多様な主体の参画を促進します。地域への負荷の把握と管理を通じて、環境・文化・社会の調和を図ります。

本アクションプランは、経済、文化、環境など複数の分野にまたがる取組で構成されています。これらを着実に進めていくためには、分野横断で調整し、継続的に取り組む体制が不可欠です。その基盤となるのが、「A. 持続可能なマネジメント」であり、これに取り組むことで、「B. 社会経済のサステナビリティ」「C. 文化的サステナビリティ」「D. 環境のサステナビリティ」の取組が実現します。

I. マネジメントの組織と枠組み

(1) 持続可能な観光の推進体制の整備

●アクションプランの進捗管理、評価を行うコンソーシアムの設置

観光関係事業者、地域づくり団体等による天草市観光コンソーシアムを設置し、アクションプランの進捗状況のモニタリングやJSTS-Dに基づく評価を通じて、地域の多様な関係者の協働による「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりにつなげます。

●観光地域づくりの司令塔となる組織に関する検討

地域全体で、持続可能な観光地域づくりに取り組むために、地域の多様な関係者の参画を得て、観光地経営の司令塔となる組織のあり方についての検討を行います。

(2) 観光に起因する地域課題の把握・調査分析、フィードバック体制の整備

●観光負荷に関する調査の実施、オープンデータ化の推進

地域における生活や企業活動に、観光がどの程度負荷をかけているのかを、アンケート調査等により定期的に把握し、評価を行います。

また、調査結果を公表することで、地域全体で課題を共有し、状況改善に向けた議論や取組みを促します。

II. ステークホルダーの参画

(1) ステークホルダーの参画

●持続可能な観光に関するセミナー、研修等の実施

持続可能な観光地域づくりを地域全体で進めていくため、セミナーや研修等を開催し、観光関係事業者、住民、行政が一体となって取り組んでいく機運を高めます。

(2) 住民意見の把握

●持続可能な観光に関する調査の実施

観光地域づくりへの住民参画、観光による地域経済の活性化や市民生活の向上の実感度合いを把握するため、アンケート調査等を行います。

(3) 地域における観光教育の充実

●持続可能な観光に資する人材の育成

持続可能な観光地域づくりを進めるためには、正しい理解とともに行動できる人材の育成が必要不可欠です。幅広い世代に向けた学習機会を設けながら、地域全体で人を育て、応援する仕組みを検討します。

●地域住民を対象としたセミナー等の実施

持続可能な観光地域づくりは、将来に向けて、私たちの生活を守るためにも重要な取組みとなります。その重要性を共有し理解を深めるため、生活に密着し身近で関心を持ちやすいテーマを設定したセミナーを開催します。

●インナープリテーションの手法を活用した観光スタイルの確立

近年は、その地域に行かなければできない「体験・交流・共感」を求める観光需要が高まっています。本市では、歴史や文化、自然資源などの魅力や価値をストーリー化し、交流を通じて来訪者に伝えるインナープリテーションの手法を活用することで、天草ファンの獲得を目指します。

また、来訪者との交流を通じた魅力の共有においては、地域住民の参画も大きな力となることから、インナープリテーションガイドブックをつくるワークショップや、使うための講座に地域住民の参加を促すことで、魅力や価値の再発見・再評価を通じてシビックプライドやおもてなしの意識を高め、住民自らが来訪者に魅力を発信できる地域を目指します。

●地域の日常にあふれる魅力を発信する人材の育成

日常の暮らしの中にある生活や風景などの魅力を発信することで、その魅力を「体験・交流・共感」したい天草ファンの創出に期待できます。日常にある魅力を知る機会の創出とともに、地域の魅力を自ら発信する方法を習得するための講座を開催することで、積極的に情報発信できる人材の育成を目指します。

国内の取組事例

とやま観光塾（富山県）

富山県では、持続的に多様な旅行者に選ばれる観光地をめざし、次世代の観光を担う人材育成を目的とした「とやま観光塾」を開講しています。観光地域づくりや高付加価値化に関する基礎知識の習得に加え、来訪者を満足させられる観光ガイドの育成や、地域資源を生かしたインバウンドツーリズムの企画・実施ができる人材の育成を目指しています。

講座は、「高付加価値対応基礎コース」「観光ガイドコース」「グローバルコース」など複数のコースを設け、実践的な講義や体験、ワークショップを通じて観光ガイドや高付加価値対応能力、外国人旅行者対応力などを学べる構成となっています。県内外の専門講師も招き、実務に即したスキル育成を進めています。

高付加価値旅行ガイド研修（日本政府観光局）

日本政府観光局（JNTO）では、訪日外国人旅行の消費額拡大・地方誘客促進に向け、高付加価値旅行者の目標や価値観を理解し、同旅行者が求める体験やサービスを提供するガイドのための研修を実施しています。コミュニケーションスキルや旅程作成などの導入研修や、フィールドワークなどの実践的なプログラムを通して、知識や対応力を身に着け高品質な体験を提供するガイドを育成します。

(4) 観光客の意見・行動の把握**●観光動向調査の実施**

天草市を訪れた観光客を対象に、来訪目的、満足度、再来訪意向、消費単価等を調査分析する観光動向調査を実施します。調査結果を公表し地域の課題や強みを共有することにより、地域全体で観光客の満足度向上やリピーター獲得を目指します。

(5) 持続的な観光情報の発信・プロモーションの推進**●データを活用したマーケティングに基づく情報発信**

人流データにより、観光客の発地、性別や年代等の属性、周遊行動などの具体的な情報を収集分析し、ターゲットやリーチできる情報を明確にした戦略的なプロモーションを展開します。

●訪日外国人の誘客強化に向けたプロモーション

本市では、宿泊者数全体に占める割合が2%程度にとどまっている訪日外国人の誘客強化が喫緊の課題です。熊本との交流が拡大している台湾に向けては、新たに策定した戦略に基づき、ターゲット層に来訪や消費を促す効果的な情報を発信します。また、欧米からの訪日外国人には、潜伏キリストンの歴史的なストーリーや崎津集落の美しいロケーションが好評で注目が高まりつつあるため、これらを核としたプロモーションの強化により誘客を図ります。

III.負荷の変化と管理**(1) 観光による地域への負荷の把握****●地域への観光負荷に関する情報の収集**

市内への来訪者数や宿泊客数の継続的なモニタリングと併せて、市内における観光客の消費動向や周遊行動を把握します。また、調査結果を公表し、季節や時間ごとの繁忙閑散の差や、観光施設や観光スポットの受入状況を地域全体に共有するとともに、観光需要の平準化、生活環境への負荷の軽減につながる取組みの検討に活用します。

(2) 自然及び文化的資源の保護・ゾーニングに関するガイドライン等の作成**●天草市文化振興計画、天草市景観計画、天草市環境基本計画等に沿った取組みの実施**

関連する各種計画に沿って、地域資源の保全と活用を進めます。歴史文化遺産や文化財の保存・継承を図る他、景観形成重点地区の指定や必要な行動規制、自然公園法に基づく国立公園規制の周知により、自然や歴史景観の維持・形成に取り組みます。また、水辺環境、森林、里山などの保全・再生を図ります。

(3) 気候変動による環境変化への適応**●天草市環境基本計画等に沿った取組みの実施**

気候変動に伴う環境変化により、これまでの景観や農林水産物などの観光資源や、季節のサイクルは維持できなくなりつつあります。天草市環境基本計画では、行政、事業者、住民を推進主体として、滞在者を含め環境保全に定めることとしており、温室効果ガスの排出削減などに取り組みます。

(4) 災害への対応

●天草市地域防災計画等に沿った取組みの実施

地域防災訓練への参加、事業所等の防災設備の整備、多言語での情報発信体制の整備など、平時より災害対策に取り組む他、文化財への被害防止や、被害調査、応急対策の体制を整備します。また、市内全ての道の駅においてBCP（業務継続計画）を策定し、災害時における体制を整備します。

B. 社会経済のサステナビリティ

観光を通じた地域経済循環の拡大と地元資源の活用を推進します。文化・自然環境の保全、安全・治安・ハラスメント防止を重視し、誰もが安心して楽しめる持続的な観光社会を実現します。

天草市に必要な観光消費額を知ろう

観光を地域経済の力として持続的に生かしていくためには、観光客が市内で使ったお金が、地域の事業者や雇用へと循環していく「域内経済循環」を高めていくことが重要です。そのための第一歩として、「天草市が将来にわたり自立した地域経済を維持していくために、どの程度の観光消費額が必要なのか」を把握する視点が求められます。

観光消費額は、単なる売上規模ではなく、経済波及効果を通じて雇用や関連産業への影響を測ることができ、来訪者数や客单価、ターゲット層といった観光振興の目標値を根拠をもって設定するための重要な指標となります。

本アクションプランでは、まずこうした考え方を共有し、観光による経済波及効果の把握と算出を今後の重要な検討課題として位置付けます。今後、データの蓄積や分析を進めることで、より根拠ある目標設定につなげていきます。

【観光消費額目標の算出事例】

- ・魚津市観光振興計画
- ・呉市観光振興計画

I. 地域経済への貢献

(1) 観光による地域への経済効果、地域内経済循環の測定

●産業連関等のデータに基づく経済効果等の測定手法の検討

産業連関や観光人流データ等を活用し、市内の観光消費額や経済波及効果の測定方法を検討し、データに基づく戦略策定、目標設定の基盤整備を目指します。

(2) 働きがいと雇用機会の創出

●デジタル技術を活用した生産性向上

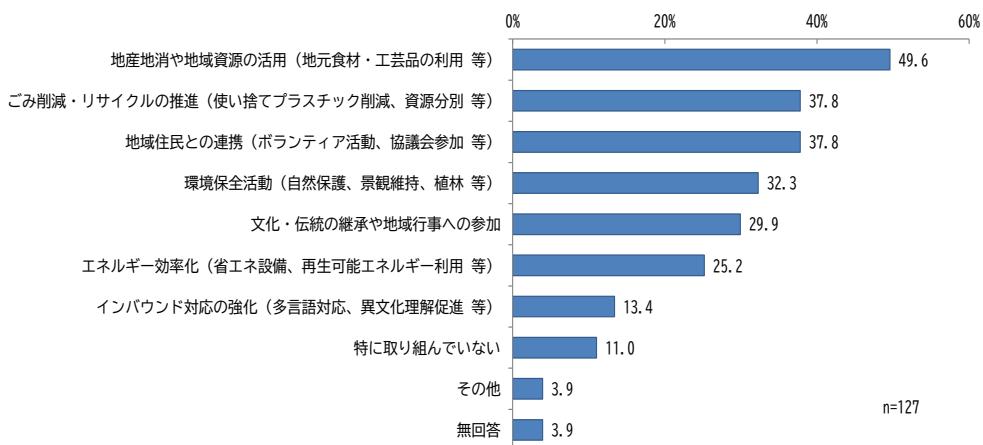
人口減少や高齢化に伴い、市内での観光の担い手は減少しており、アンケート調査でも市内事業者の経営上の課題を人手不足とする回答が最も多くありました。人口減少下において観光需要に応えていくためには、観光関連事業者の生産性を高める取組みが必要となるため、省力化・省人化のためのデジタル技術の導入を支援します。また、スキルアップ研修等による人材育成を通じた生産性向上も併せて支援します。

(3) 地域資源、地域サービス等の活用

●地域の豊かな食材を活かした食の提供

ブランド食材を始めとする多様な食資源がある本市では、アンケート調査において、約半数の事業者が地域の食資源を活用した地産地消に取り組んでいるとの回答がありました。天草ならではの食資源の活用方法として、土地の気候や地形、歴史文化や風習、地元食材に対する作り手の想いが詰まった食を旅の目的とするなど、地産地消を通じた地域内経済循環をさらに進める新たな取組みを検討します。

【図 3-1】(再掲) 市内事業者の「持続可能な観光」への取組状



資料) 天草市 「持続可能な観光」の実施状況に関するアンケート

●観光資源（コンテンツ）・サービスの高付加価値化

観光客の地域内での観光消費額の増加のため、新たな観光コンテンツによる高付加価値なビジネスモデルづくりに積極的に取り組む観光関連事業者を支援します。また、複数の目的地間の周遊、移動体験を伴うサイクリングや車泊（くるまはく）などの道の駅等を活用したキャンピングカーによる観光、聖地巡礼等の誘客につながる舞台作品のロケ地誘致、スポーツ大会・合宿等で訪れた来訪者の滞在時間の延長による消費拡大を目指します。

●事業者等の連携による地域内経済循環の向上

観光客への提供商品や事業者が利用する商品・サービスに、市内のものをそれぞれに取り入れることで、地域内における経済循環を活性化させることが重要です。地域内経済循環を高めるために事業者同士の連携強化を促し、地域内調達率の向上を目指します。

●地域の日常にある暮らしを地域資源として見える化

地域の日常にあふれる魅力的な生活や風景を、住民と協働し「体験・共感・交流」を通じて、来訪者に向けて発信することで、暮らしの中に埋もれた地域資源の見える化を目指します。

II.社会福祉と負荷

(1) 地域住民と来訪者が一体となったコミュニティ、歴史文化、自然環境の保全

●地域の歴史文化や自然を親しむツーリズムへの展開

インターパリテーションガイドブックを、来訪者と地域（住民、ローカルガイド、観光事業者等）との交流の架け橋として、地域の歴史文化や自然環境を親しむツーリズムを展開します。心豊かな交流を通して、地域資源の価値を伝えることで、地域のコミュニティと来訪者が一体となり、地域社会、歴史文化、自然環境の保全に寄与する天草スタイルを目指します。

インターパリテーションガイドブック

インターパリテーションとは

自然や歴史・文化などが持つ本来の意味や価値を、単なる知識としてだけでなく、背景にあるストーリーもわかりやすく伝え、来訪者の主体性を引き出し、感動や行動につなげるコミュニケーション活動です。

“みんなでつくる”ガイドブック

インターパリテーションガイドブックは、地元に暮らす方々が中心となり地域の魅力を発見し、未来につなげていくための参加型のガイドブックです。地域で培われた知恵や経験を生かした交流を促し、地域の魅力を感じてもらうために作成するものです。

【事例】

- ・天草市西海岸エリア 「天草インターパリテーションガイドブック」
- ・北海道音威子府村 「音威子府村取扱説明書」
- ・岐阜県白川村 「白川郷再発見」

ガイドブックの活用

ガイドツアーや観光プログラムの企画運営、学校や地域団体の学習や体験活動の教材等

(2) ハラスメントの防止

●天草市人権教育・啓発基本計画等に沿った取組みの実施

地域住民、来訪者など観光に関わるすべての人の人権が尊重されるため、人権教育・啓発や相談体制の充実など、安心して過ごせる環境の整備を目指します。

(3) 安全と治安のための体制づくり

●地域における防犯灯や防犯カメラの設置促進

防犯灯や防犯カメラの設置を支援することで、地域における安全・治安体制づくりを促進します。防犯への取組みの充実により、来訪者や受け入れる側も含め、安心して過ごせる観光地を目指します。

●安全、治安に関するリアルタイムの情報発信

防災無線や安心・安全メールを活用することで、安全や治安に関するリアルタイムの情報を来訪者へ届け、不安の軽減や非常時の安全確保につなげます。

(4) 多様な観光客の受入環境整備

●ユニバーサルデザインの普及促進

高齢者や障害者を含めた多様な観光客が快適に楽しめる観光地として、ユニバーサルデザインの7原則を考慮した普及を促進します。観光施設におけるユニバーサルデザインの導入や観光サインへのピクトグラムの導入など、年齢や性別、国籍などにかかわらず快適で安心して滞在できる環境整備により、観光価値を高めます。

ユニバーサルデザイン7原則

①公平に利用できること

例) 階段にスロープ、エスカレーターを併設する

②使う上での柔軟性があること

例) 階段に高さの異なる複数の手すりを設置する

③シンプルで直感的であること

例) 案内看板を大きくて見やすいものにする

④情報がわかりやすいこと

例) トイレにピクトグラムによる案内表示を設置する

⑤誤操作に対する安全性が確保されていること

例) 駅にホームドアを設置する

⑥身体的負担が少ないこと

例) 自動販売機に低い位置のボタンを設置する

⑦アクセスしやすいスペースが確保されていること

例) 観光施設入り口付近に車いす専用駐車場を整備する

●多言語による案内、サービスの向上

訪日客増加で需要の重心が変化する中で、旅先としての日本の価値は上昇しています。増加が見込まれる訪日外国人の受入環境の整備のため、観光施設等の案内看板やパンフレットなどの多言語表記、キャッシュレス対応やWi-Fi設備の強化、観光関連事業者向けのセミナー等の実施、各種宗教やベジタリアンといった多様性への対応、多言語による観光案内やサービス提供の普及等を推進します。

●サイクルツーリズムの推進

優れた観光資源を自転車で有機的に結ぶサイクルルートをつくり、魅力的で安全な走行環境やルート上の道の駅をはじめとする観光施設の受入体制、情報発信等に取り組み、地域創生やサイクルツーリズムなどの新たな観光価値の創出につなげます。宇土天草半島の宇城市三角から天草市牛深までを結ぶルートにおいて、官民及び地域が一体となり、九州初となるナショナルサイクルルートの指定を目指します。

ナショナルサイクルルート

『ナショナルサイクルルート（NCR）』とは

NCR制度とは、自転車活用推進法に基づき、国土交通省が令和元年度に創設した制度で、日本の優れた観光資源を自転車で有機的に結ぶルートを指定するものです。魅力的で安全な走行環境や地域の受入体制、情報発信など一定の条件を満たすサイクリングルートが対象となり、サイクルツーリズムの推進や地域創生、新たな観光価値の創出を目的としています。現在、全国で6か所が指定されています。

“九州初”的NCR指定に向けて

天草地域のルートは、天草と一体・一周・一番から取り「あまいち」と名付け、九州初のNCR指定を目指します。ルートは、主に海岸沿いの国道324号や県道を通り、宇城市のJR三角駅から天草市の牛深港までを結ぶ150キロ。下田温泉や世界遺産などルートの魅力をPRするなど、世界に誇れるルートとともに自転車を活用した観光振興を目指します。

【全国のナショナルサイクルルート位置図】



資料) 国土交通省

【あまいち（天草地域のルート）】



資料) 熊本県

あまいちのロゴを追加掲載

●キャンピングカーでの車中泊施設等の受入環境の整備

近年、全国的にキャンピングカーや RV（スポーツ用多目的車）での観光客が増加しています。市内でも、4か所の車中泊施設が整備され、国立公園内の魅力ある自然資源の中でゆっくりと過ごしたい旅行や、ペットと一緒に旅行を楽しみたい観光客ニーズの受け皿の一つとなっています。また、比較的滞在時間が長い傾向にある車中泊において、ルート上に車中泊施設等を広域で整備することにより、さらに周遊性を高めることに期待できることから、道の駅などの観光施設における民間主導での受入環境の整備を促進します。

●公共交通による目的地までの移動利便性の向上

観光交通と生活交通を分けて、両者を支える持続可能な移動の仕組みづくりを検討し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりを目指します。

C. 文化的サステナビリティ

文化財や文化的景観等の保護（保存・活用）を進めるとともに、観光客の行動管理体制の構築や住民の声を反映した観光行動規範の確立、協働による観光情報の集約・発信を推進します。地域の多様な主体が協働して文化・歴史資源の保護と観光の両立を目指します。

I. 文化財等の保護

(1) 文化財、世界遺産等の保護

●天草市文化振興計画、天草市景観計画等に沿った取組みの実施

文化財や文化的景観等の適切な保護に取り組みます。地域の文化的な価値を守りながら、観光資源としての価値を発信するなど、地域住民と来訪者がともに文化的な価値を共有できる環境づくりを目指します。

II. 文化的場所への訪問

(1) 観光客の行動管理体制の構築

●データに基づく観光客の行動把握

人流等データに基づき、観光客の移動や滞在状況を分析し、時間帯や場所ごとの混雑状況を把握します。観光客の行動把握により、混雑（オーバーツーリズム）緩和策の検討に活用できる他、観光客の消費行動や周遊行動が明らかになるとから、観光資源としての魅力をさらに高める取組みや、文化財等の維持・保全における取組みの順位付けなどへの活用にも期待できます。

(2) 地域住民の声を反映した観光客の行動規範の確保

●観光客に向けたマナー啓発

文化財や世界遺産等において、訪日外国人を含め、見学マナーを啓発するため、パンフレットや看板、ウェブサイトで情報を周知し、ガイドの際にも啓発を行います。適切なマナーによる観光を促すことで、地域住民と観光客の双方が安心できる環境となり、さらには文化財等の維持・保全への正しい理解が広がることで、持続可能な文化財等の保護につながります。

●ガイドの育成等

地域資源の背景にあるストーリーや価値を分かりやすく伝えるインタープリテーションの手法などを学び、単なる観光消費ではなく、“選ぶことで守る”という意思を持った旅であるサステナブル・ツーリズムの担い手となるローカルガイドの育成に取り組みます。

(3) ステークホルダーの協働による観光情報の集約・発信

●世界文化遺産「天草の崎津集落」の価値の発信

国内外に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」としての価値、地域に根差した歴史や文化を発信することで、観光客の誘客につなげます。

また、富裕層向けの海外クルーズ船の崎津への寄港は、世界に向けて「天草の崎津集落」を発信する契機とな

第3章 持続可能な観光地域づくりに向けた施策・アクション体系
ることから、地元と一体となり積極的に受け入れ、観光プロモーション等に活用するとともに、地元への経済波及効果を増大させる新たなコンテンツづくりを支援します。

●天草の歴史・文化の理解促進

市内のキリストン関連資料館、歴史民俗資料館を中心に、天草の風土や暮らしなどの歴史や文化を来訪者に伝え、地域ならではの体験や学びを提供します。地域独自の歴史・文化への理解や共感を得ることで、新たな天草ファンとなり再来訪の機会につながることが期待できます。

●広域連携による情報集約・発信

近隣自治体と連携した情報発信により、広域的な交流人口の拡大を目指します。特に、長崎、熊本、鹿児島の九州西岸軸においては、世界遺産をはじめとするキリストン文化や国立公園など包括的で多様な自然、文化、食があることから、これらの観光情報を集約し一体となった発信を推進します。

D. 環境のサステナビリティ

自然遺産の保全や生態系維持に取り組み、行動管理や啓発を推進します。省エネ・水資源保全・廃棄物削減など環境基本計画と連動した取り組みにより、低負荷で持続可能な観光環境を構築します。

I. 自然遺産（国立公園）の保全

（1）自然遺産のリスト化

- 住民や観光客向けの自然遺産リストの作成

関係機関等と連携して、自然遺産を体系的に整理し、すべての人が理解しやすい形式でリストを作成します。野生動物や地質、植生などの情報を明示し固有の自然環境を伝えることで、来訪者の自然保護への関心と理解を深めます。

（2）観光客の行動管理体制の構築

- データに基づく観光客の行動把握

人流等データに基づき、観光客の移動や滞在状況を分析し、時間帯や場所ごとの混雑状況を把握します。観光客の行動把握により、混雑（オーバーツーリズム）緩和策の検討に活用できる他、自然環境への影響が大きいスポットやルートが明らかになることから、自然保護の必要性や緊急性の判断の指標としての活用に期待できます。

（3）地域住民や専門家の声を反映した観光客の行動規範の確保

- 観光客に向けたマナー啓発

自然環境を守るため、関係機関等と連携して、パンフレットや看板、ウェブサイトで情報を周知します。適切なマナーによる観光を促すことで、豊かな自然環境が将来に向けて保全されることにつながります。

- ガイドの育成等

自然環境を含む地域資源の背景にあるストーリーや価値を分かりやすく伝えるインタープリテーションの手法などを学び、単なる観光消費ではなく、“選ぶことで守る”という意思を持った旅であるサステナブル・ツーリズムの担い手となるローカルガイドの育成に取り組みます。

- 天草市環境基本計画、海にうかぶ博物館あまくさ活動計画に沿った取組みの実施

海洋生物の保護や観察プログラムの運営に取り組みます。また、教育的、体験的な活動を通じて、観光客が自然環境の価値を学びながら楽しめる環境づくりを進めます。

II. 資源マネジメント

（1）事業活動における省エネルギー行動の啓発

- 事業者の温室効果ガス排出の現状把握の促進

事業者自らが、電気、ガス、燃料、水道などの使用を可視化して、省エネルギー対策や効率的な資源利用を促し、観光施設や宿泊施設での環境負荷の軽減につながるように努めます。

(2) 水環境の保全対策の促進

● 海域環境（里海）の保全

関係機関等と連携して、海域の水質や生態系の調査や藻場や干潟の保護活動を支援します。清らかな海と豊かな生態系を守ることで、野生のイルカウォッチング、海水浴などのマリンアクティビティ等、自然体験の価値をさらに高めます。

また、「天草市イルカセンター」を観光と環境のシンボルとしてリニューアルし、イルカウォッチングを楽しむ観光客に向けた環境学習の場としての活用を検討します。

● 温泉の水質等維持

関係機関等と連携して、温泉水の水質や水量の把握調査などを支援します。安心して利用できる源泉等を確保することで、宿泊施設等での安定したサービス提供につながります。

● 河川環境の保全

関係機関等と連携して、河川の水質や生態系の状況把握、清掃活動や植生保護を支援します。美しい河川環境を保全することで、景観が維持され、フットパス等の散策やサイクリングにおける体験価値の向上が期待されます。

III. 廃棄物と排出量の管理

(1) ごみの減量化・資源化の促進

● 食品ロス削減や脱プラスチック等の推進

本市では、ごみの減量化・資源化は喫緊の課題であり、地域外から観光客を受け入れる観光関連事業者においては、観光を通じて排出されるごみの発生抑制が求められます。このため、関係機関等と連携して、食品ロスや使い捨てプラスチック製品などの観光を通じて排出されるごみの減量化・資源化を促進する仕組みづくりを検討し、環境負荷を最小化する観光地域づくりを目指します。

● 再生可能な商品の販売等の促進

観光施設や販売店における再生素材を活用した商品や、長く使用できる商品の販売を促し、環境負荷の少ない事業活動を後押しします。

また、観光施設等における使い捨て資材の削減、資源の分別強化、資源化につなげていく取組み等を促します。観光客に対しても、マイボトルやマイバッグの利用やごみ減量の行動を促します。

(2) 事業活動における省エネルギー行動の促進

● 再生可能エネルギーや高効率な省エネルギー機器等の導入促進

観光施設や宿泊施設等における省エネルギーの取組みを通じて、持続可能な観光地域づくりを進めます。再生エネルギーの利用、高効率な照明や空調設備等の導入を促すことで、エネルギー消費の削減や環境負荷の軽減を図ります。

併せて、機器導入等の支援や情報提供により、環境整備を促進し、環境にやさしい地域としての魅力を高めます。

第3章 持続可能な観光地域づくりに向けた施策・アクション体系

●環境負荷の小さい移動手段や輸送手段の検討

温室効果ガス排出量がより少ない電動車の導入検討、公共交通機関による目的地までの移動利用を推進します。また、いわゆるラストワンマイルのバス停から目的地まで等の短距離移動においては、シェアサイクル等の利用を推進し、公共交通機関への過度な利便性の期待にも配慮するとともに、小エリア内での観光周遊にもつなげていきます。

(3) 騒音・振動の管理

●交通量、騒音状況の把握

主要道路の騒音等の状況を把握することで、観光客が快適に滞在できる環境、住民が安心して暮らせる環境の両立を目指します。

●振動規制法に基づく関係者への働きかけ

道路工事、建設作業等による振動が過度に周辺環境に影響しないように、振動規制法に基づき関係者に働きかけます。日常生活とともに観光地での滞在環境を守り、暮らしと観光が共存する環境づくりを推進します。

第4章 アクションプラン推進体制と財源

1. 本市の特徴を生かしたアクションプランの推進体制について

本市は、九州西岸の中心に位置し、島しょ地域でもあり広大な面積を有します。東部は天草五橋により熊本方面と陸路で繋がっており、北部の長崎及び南部の鹿児島とは、海を隔ててはいるものの航路で繋がる地域です。

また、島原・天草の乱以降、様々な地域からの移住政策がとられたこともあり多種多様な文化とともに、キリスト教の弾圧とその後の潜伏キリシタンの歴史など、他に例をみないような独自の歴史があります。

このほかにも、世界でも珍しい野生のイルカが年間を通じて生息する奇跡の海や、雲仙天草国立公園の美しい自然景観、非火山性の優れた泉質に恵まれた下田温泉、ハイヤの発祥の地とされる牛深ハイヤ踊りなど、多くの地域資源を有しています。

このように、広大な市域において多種多様な地域資源が存在し、それぞれの観光資源を活用しながら観光を通じた経済活動が営まれている本市では、観光振興の推進に当たって、地域別やテーマ別の比較的小規模で機動力のある観光団体（以下「地域・テーマ別観光団体」）が、それぞれの強みや特徴を生かした観光コンテンツによる誘客を主導するとともに、持続可能な観光地域づくりにも主体的に取り組むことが効果的です。

本市及び（一社）天草宝島観光協会は、これらの地域・テーマ別観光団体の取組みを支援するとともに、より効果的・効率的に取り組めるよう多様な関係者間の調整・連携を図り、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりを推進します。

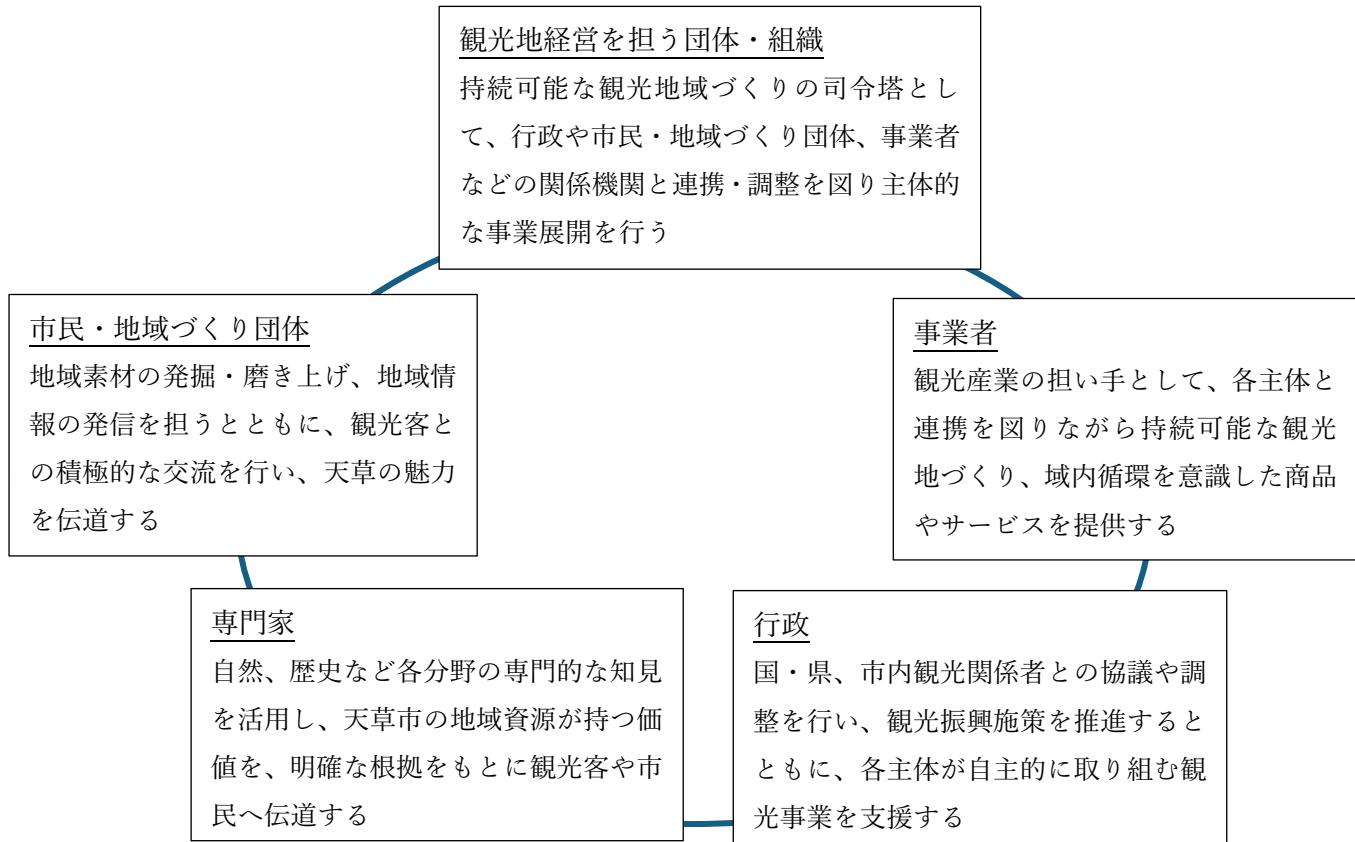
2. アクションプランを推進する司令塔組織について（今後の課題）

持続可能な観光地域づくりは、地域の多様な関係者と協働し、観光地経営を専門的に担う司令塔としての機能を持つ組織を中心として取り組むことが理想的です。今後、地域の多様な関係者の参画を得て、司令塔組織のあり方について検討していくこと必要があると考えています。

期待される役割

- ・ 事業者や行政、市民・地域づくり団体など様々な立場の団体との連携を図り、意見を取りまとめることで、効率的なマネジメントを行う
- ・ 観光に関連する情報が集約することで、効果的なマーケティングを可能にする
- ・ 観光を専門とする人材を配置し、組織に観光地経営のノウハウが蓄積されることで中長期的視点での取組を可能にする

【図4-1】 各主体の役割



3. アクションプランを推進するための財源について（今後の課題）

持続可能な観光地域づくりを進めるためには、多くの予算が継続的に必要となります。本市では、これまでにも入湯税や国・熊本県の補助交付金等を積極的に活用してきましたが、今後は、本市の魅力ある多種多様な地域資源を守り、次の世代に継承していくための有効な財源について、下記の先進事例も参考しながら、調査研究していくことが重要となってくると考えています。

観光財源確保の先行事例

- 北海道俱知安町

俱知安町では、交流人口の拡大と魅力あるまちづくりを進めるための財源として、2019年11月から税率2%の宿泊税を導入しています。この宿泊税を活用した観光施策の実施主体である俱知安観光協会は、2025年10月に観光庁から「先駆的DMO」に選定されました。同協会は関係団体との合意形成に取り組みながら、宿泊税を財源の一部として、国内外の旅行事業者等を対象としたBtoB向けプロモーション事業や、市街地とリゾート地における混雑緩和を目的とした無料シャトルバスの運行などを展開しています。

出典 北海道財務局小樽出張所 2025年 「～北海道初の先駆的DMOに選定～ 一般社団法人 俱知安観光協会の観光施策」

https://lfb.mof.go.jp/hokkaido/content/kakusyo/040/20251208_takubetuchousa.pdf

- 岐阜県高山市

高山市は、飛騨高山が有する観光の魅力を市のまちづくり全般に波及させることを目的に、2025（令和7）年10月1日から宿泊税が施行されています。市内の宿泊料金に応じた税額は、1人1泊あたり宿泊料金が1万円未満は100円、1万円以上2万円未満は200円、2万円以上は300円と段階的に設定されています。この税収は、観光振興・受入環境整備・文化財保全・危機管理など、地域の観光基盤強化や安全・環境対策に充てられる予定です。施行に合わせて、高山市では宿泊税対応システム整備費の補助制度を設けており、宿泊事業者が特別徴収義務者として宿泊管理システムの改修や新規導入を行う際の費用の一部を助成しています。

出典

高山市 2025年 「<日本語>宿泊される皆さまへ（宿泊税の概要）」

<https://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1000061/1022608/1022609.html>

高山市 2025年 「令和7年度高山市宿泊税対応システム整備費補助金について」

<https://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000015/1005408/1021226/1021235.html>

- 熊本県内の取組

熊本市では2026（令和8）年7月から、観光施設の整備や旅行者の滞在環境の向上、誘客プロモーションを目的に、県内自治体で初めて宿泊税を導入します。徴収額は1人1泊あたり200円で、年間約7億円の増収が見込まれます。宿泊税を活用した令和8年度の取組として、熊本城へのミスト装置の設置や、多言語での案内表示の整備、歴史文化のストーリー化や昼夜楽しめるイベントの開催などが考案されています。また、宿泊税導入への対応が求められる宿泊施設向けに。レジシステム整備の補助事業が実施されています。

この他にも、地域資源を活用した観光財源確保への取組事例として、下記の事例が挙げられます。

- 入湯税の超過課税（北海道釧路市 阿寒湖温泉地区）
- 世界遺産集落保存協力金（駐車料金への上乗せ等）（岐阜県白川村）
- 歴史と文化の環境税（福岡県太宰府市）
- 宮島訪問税（広島県廿日市市）

第5章 目標の設定

本市のありたい姿「多様な地域資源を生かし、魅力ある観光のまちがつくられている」を実現するため、JSTS-Dの4分類「A. 持続可能なマネジメント」「B. 社会経済のサステナビリティ」「C. 文化的サステナビリティ」「D. 環境のサステナビリティ」ごとに評価指標を設定し、定期的な進捗評価や振り返りを行い、必要に応じて本アクションプランを見直します。

A. 持続可能なマネジメント

メイン
指標

天草の自然、歴史・文化などの観光資源（地域資源）が、将来においても持続可能なかたちで活用されていると感じる市民の割合

基本施策	基本施策（細目）	サブ指標
I マネジメントの組織と枠組み		
(1) 持続可能な観光の推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●アクションプランの進捗管理、評価を行うコンソーシアムの設置 ●観光地域づくりの司令塔となる組織に関する検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム会合の開催回数・出席率
(2) 観光に起因する地域課題の把握・調査分析、フィードバック体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ●観光負荷に関する調査の実施・オープンデータ化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連調査の実施、結果の公表状況 ・状況改善に向けた取り組みに着手した地域課題の数
II ステークホルダーの参画		
(1) ステークホルダーの参画	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な観光に関するセミナー、研修等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー、研修会の開催回数 ・セミナー、研修会への参加人数 ・持続可能な観光に対する理解度が向上した参加者の割合
(2) 住民意見の把握	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な観光に関する調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興が地域経済の活性化や市民生活の向上に役立っていると感じている市民の割合 ・持続可能な観光地域づくりを意識している住民の割合
(3) 地域における観光教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な観光に資する人材の育成 ●地域住民を対象としたセミナー等の実施 ●インナーブリティーションの手法を活用した観光スタイルの確立 ●地域の日常にある魅力を発信する人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・天草市が美しい自然や歴史・文化、美味しい食など、魅力あるまちであると感じている市民の割合 ・観光地や移住先として天草市をおすすめしたいと思う住民の割合 ・インナーブリティーションガイドブック講座の開催回数、参加人数 ・地域の日常を楽しむ観光コンテンツづくりのための住民参加型講座の開催回数・参加者数
(4) 観光客の意見・行動の把握	<ul style="list-style-type: none"> ●観光動向調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光動向調査の実施、結果の公表状況
(5) 持続的な観光情報の発信・プロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ●データ等を活用したマーケティングに基づく情報発信 ●訪日外国人の誘客強化に向けたプロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会ホームページへの海外からのアクセス数 ・外国人向けの情報発信件数
III 負荷の変化と管理		
(1) 観光による地域への負荷の把握	<ul style="list-style-type: none"> ●地域への観光負荷に関する情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・月別観光スポット別来訪者数 ・時間帯別観光スポット別来訪者数 ・観光需要の平準化に係る取組みの数
(2) 自然及び文化的な資源の保護・ゾーニングに関するガイドライン等の作成	<ul style="list-style-type: none"> ●天草市文化振興計画、天草市景観計画、天草市環境基本計画等に沿った取組みの実施 	-
(3) 気候変動による環境変化への適応	<ul style="list-style-type: none"> ●天草市環境基本計画等に沿った取組みの実施 	-
(4) 災害への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●天草市地域防災計画等に沿った取組みの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の防災体制の整備や災害時の情報伝達手段の整備など災害に強いまちづくりが進んでいると感じている市民の割合 ・防災対策ができる観光関連事業者の割合 ・BCP（事業継続計画）を策定した道の駅の数

B. 社会経済のサステナビリティ

メイン
指標

観光消費額

令和6年：127.8 億円 → 総合計画での目標値：148.4 億円

訪日外国人宿泊者数

令和6年：3,653 人 → 総合計画での目標値：13,000 人

国内宿泊者数

令和6年：262,048 人 → 目標値：

再来訪意向を持つ観光客の数

来訪者満足度

基本施策	基本施策（細目）	サブ指標
I 地域経済への貢献		
(1) 観光による地域への経済効果、地域内経済循環の測定	●産業連関等のデータに基づく経済効果等の測定手法の検討	—
(2) 働き甲斐と雇用機会の創出	●デジタル技術を活用した生産性向上	・新たにデジタル技術を導入した観光関連事業者の数
(3) 地域資源、地域サービス等の活用	●地域の豊かな食材を活かした食の提供 ●観光資源（コンテンツ）・サービスの高付加価値化 ●事業者等の連携による地域内経済循環の向上 ●地域の日常を楽しむ観光コンテンツの見える化	・天草市内の食材提供に積極的に取り組む事業者の割合 ・SNSによる情報発信回数 ・大会合宿宿泊者数（延べ人数） ・観光客の平均消費単価
II 社会福祉と負荷		
(1) 地域住民と来訪者が一体となったコミュニティ、歴史文化、自然環境の保全	●地域の歴史文化や自然を親しむツーリズムへの展開	・インタープリテーションガイドブックを活用する観光関連事業者の数
(2) ハラスメントの防止	●天草市人権教育・啓発基本計画等に沿った取組みの実施	・人権が尊重されていると感じる市民の割合
(3) 安全と治安のための体制づくり	●地域における防犯灯や防犯カメラの設置促進 ●安全、治安に関するリアルタイムの情報発信	・防犯カメラ設置補助の件数
(4) 多様な観光客の受入環境整備	●ユニバーサルデザインの普及促進 ●多言語による案内、サービスの向上 ●サイクルツーリズムの推進 ●公共交通による目的地までの移動利便性の向上	・観光施設改修数 ・観光サイン改修数 ・乗合タクシーの運行地域数 ・観光関連事業者におけるキャッシュレス対応済割合

c. 文化的サステナビリティ

**メイン
指標**

崎津集落の昔ながらのまちなみの景観が保たれないと感じている市民の割合
崎津集落における世界遺産の価値が理解できたと感じている来訪者の割合

基本施策	基本施策（細目）	サブ指標
VI 文化財等の保護		
(1) 文化財、文化的景観等の保護	●天草市文化振興計画、天草市景観計画等に沿った取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財修復件数 ・文化財整備補助制度の周知回数 ・文化的景観形成事業補助制度の周知回数 ・文化的景観形成事業補助件数
VII 文化的場所への訪問		
(1) 観光客の行動管理体制の構築	●データに基づく観光客の行動把握	<ul style="list-style-type: none"> ・資料館の入館者数
(2) 地域住民の声を反映した観光客の行動規範の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客向けたマナー啓発 ●ガイドの育成等 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産講座等の開催回数 ・世界遺産講座等の参加人数 ・資料館講座等の開催回数 ・資料館講座等の参加人数
(3) ステークホルダーの協働による観光情報の集約・発信	<ul style="list-style-type: none"> ●世界文化遺産「天草の崎津集落」の価値の発信 ●天草の歴史・文化の理解促進 ●広域連携等による包括的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産展示会等の開催回数 ・資料館企画展等の開催回数 ・崎津集落への来訪者数 ・近隣自治体との連携事業の数

D. 環境のサステナビリティ

**メイン
指標**

自然を保全・活用し、学びの場などの仕組みができると感じる市民の割合
自然体験を行った旅行者の満足度

基本施策	基本施策（細目）	サブ指標
VIII 自然遺産の保全		
(1) 自然遺産のリスト化	●住民や観光客向けの自然遺産リストの作成	・市内自然遺産リストの作成
(2) 観光客の行動管理体制の構築	●データに基づく観光客の行動把握	・【再掲】月別観光スポット別来訪者数 ・【再掲】時間帯別観光スポット別来訪者数
(3) 地域住民の声を反映した観光客の行動規範の確保	●観光客に向けたマナー啓発 ●ガイドの育成等 ●天草市環境基本計画、海にうかぶ博物館あまくさ活動計画に沿った取組みの実施	・化石教室・化石セミナー等参加者数 ・自然遺産が保全されていると感じる市民の割合
IX 資源マネジメント		
(1) 事業活動における省エネルギー行動の啓発	●事業者の温室効果ガス排出の現状把握の促進	-
(2) 水環境の保全対策の促進	●海域環境（里海）の保全 ●地下水（温泉）の水質等維持 ●河川環境の保全	・海岸漂着物処理量 ・海の環境が大切に守られていると感じている市民の割合 ・生態系の調査
X 廃棄物と排出量の管理		
(1) ごみの減量化・資源化の促進	●食品ロス削減や脱プラスチック等の推進 ●再生可能な商品の販売等の促進	・一般廃棄物排出量 ・資源化率
(2) 事業活動における省エネルギー行動の促進	●再生可能エネルギーや高効率な省エネルギー機器等の導入促進 ●環境負荷の小さい移動手段や輸送手段の検討	・市全体の温室効果ガス排出量
(3) 騒音・振動の管理	●交通量、騒音状況の把握 ●振動規制法に基づく関係者への働きかけ	・騒音・振動に対する苦情件数

10年後、20年後の天草市が目指す観光地域の姿

本アクションプランは、令和8年度から11年度までの4年間を計画期間とし、10年後、20年後の「持続可能な観光のまち」の姿に向かって進むための、はじめの一歩となる計画です。将来像を地域全体で共有し、目標に向かって協力して取り組むため、以下のようなイメージを示します。

現在（～R11）

はじめの4年間 —土台をつくる—

- ・地域の多様な関係者が参画し、「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに取り組んでいます。
- ・観光の効果や課題をデータやアンケートで把握し、地域全体で共有しています。
- ・市民や光事業者が、観光は地域の将来につながる取組であると理解し始めています。
- ・持続可能な観光地域づくりを進めるための体制やルールづくりが進んでいます。

10年後

成熟・定着 —交流が根づく観光のまち—

- ・市民や観光事業者が、天草市の魅力や価値を自分の言葉で観光客に伝えています。
- ・観光客は市民との交流を楽しみ、天草を「また訪れたい場所」と感じています。
- ・滞在時間が長く、宿泊を伴う観光が定着し、高いリピート率を誇っています。
- ・地元の食材や器を使った料理など、天草ならではの食の魅力が評価されています。
- ・自転車で地域を巡る旅など、自然・食・交流を楽しむ観光が広がっています。

20年後

次世代へ継承 —誇りとして受け継がれる「AMAKUSA」—

- ・観光客は天草市の魅力や価値に共感し、自然や文化を守り、次の世代につなぐことに協力しています。
- ・崎津集落などで潜伏キリストンの歴史を学び、市内各地の美しい景観や温泉、食やアクティビティを楽しんでいます。
- ・様々な性・年代の日本人、訪日外国人が、年間を通じてコンスタントに来訪し、滞在を楽しんでいます。
- ・「サステナブルな観光地 AMAKUSA」として国内外から注目され、市民の自信や誇りにつながっています。